

富田林寺内町をまもり・そだてる会20周年記念事業

富田林寺内町フェスティバル記念報告集



富田林寺内町をまもり・そだてる会



目 次

第 一 部

ごあいさつ	1
富田林寺内町をまもり・そだてる会シンボルマーク	2
富田林寺内町フェスティバルのチラシ	3
富田林寺内町の足跡をたどる	7
富田林寺内町をまもり・そだてる会20年のあゆみ	10
富田林寺内町フェスティバル 各イベントの報告	15
■会員家庭への「タオル」と「旗」の配布	15
■寺内町サミット～未来につなぐ寺内町～	16
■じないまち燈路	19
■ジャズ講談「織田作之助と石上露子」	19
■天晴！秋空コンサート	20
■興正寺別院大茶会	20
■子ども縁日	21
■アートクラフトマーケット	21

第 二 部 （資料集1）

寺内町サミット 詳細記録報告書	23
---------------------------	----

第 三 部 （資料集2）

寺内町サミット 参加各市プレゼン資料集	49
-------------------------------	----

寺内町きり絵カレンダー一覧	72
-------------------------	----

第 一 部

ごあいさつ

この度、富田林寺内町をまもり・そだてる会を平成6年7月に設立して以来、20年になりました。この間、皆様方のご苦勞のおかげをもって、建物の修理・修景も進みました。また、景観照明灯や景観舗装等の整備もなされ、町並みが随分きれいになりました。設立当初から住民の願いであった「静かな住環境・快適な空間」をまもりたい、そしてまた、「活気のある町」にとの思いも徐々にではありますが、叶えられてきているように感じられます。

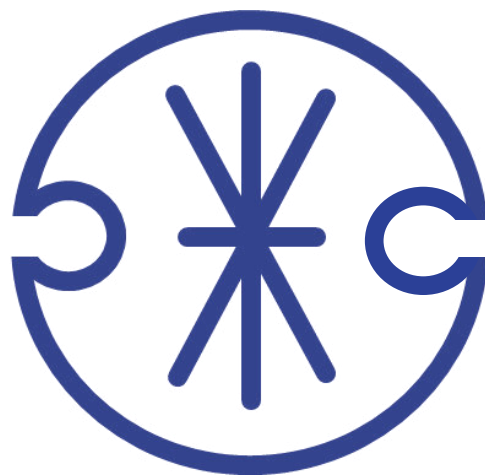
さて、今後の10年、20年を考えると、何をなすべきなのでしょうか。次世代に引き継ぐには、若い人たちが希望の持てる町にしていかなければならないでしょう。幸いにも寺内町には、富田林寺内町をまもり・そだてる会だけでなく、この町が好きだという人たちや、団体が様々な活動をされています。住民と共に富田林寺内町を盛り立てていこうと、ご協力をいただいております。伝統的建造物をただ残すだけでなく、活用していくことが大事ではないでしょうか。

そんな思いを込めて、記念のイベントを実施いたしました。市内外から多くの方にご来訪いただき、楽しんでいただきました。ご協力いただきました住民の皆様をはじめ、各種団体、行政の方々に心より厚くお礼を申し上げます。

富田林寺内町をまもり・そだてる会
会 長 橋 川 光 司

結成二十周年記念

富田林寺内町をまもり・そだてる会
シンボルマーク



このマークは分銅（貨幣）の「富」と「林」を表したものです。

「富田林町」では、明治四十三年「教育博覧会」が開催され、このマークを記した飾り物や軒提灯を撮影した写真が残されており、さらに平成十五年に、このマークを記した旗も発見されました。

当会は、平成十六年の結成十周年を迎えたときに、その記念として、写真当時の富田林町の隆盛と人々の心意気を継承するため、このマークを当会のシンボルマークとして採用することを決めました。

色調も、河内木綿の藍をイメージしております。

今後も、引き続き皆様に愛され親しんでいただきますよう、どうぞよろしく願っています。

平成二十六年十一月

富田林寺内町をまもり・そだてる会



教育博覧会（明治43年3月）の様



マークが記された旗

富田林寺内町をまもり・そだてる会20周年記念事業

富田林寺内町フェスティバル

富田林市文化振興基金事業



重要文化財 田村家住宅

寺内町サミット (16日)

- 河島アナム コンサート
- 基調講演(午後1時45分～)
「歴史遺産を活かしたまちづくり」
講師:笠井敏光教授(大阪国際大学)
- 参加市プレゼン
八尾市・貝塚市・橿原市・津市・富田林市
- 討論会
寺内町まちづくり連絡協議会行政及び団体代表

じないまち燈路 (15日)

子ども縁日 (16日)

ジャズ講談 (15日)

出演:旭堂南陽(講談師)、松本太郎(尺八)、河合摂子(ピアノ)

興正寺別院大茶会 (16日)

天晴! 秋空コンサート (16日)

出演:大阪府立金剛高校吹奏楽部

大道芸 (16日)

2014年11月15日・16日 雨天決行

場 所:富田林寺内町界限(近鉄長野線富田林駅下車徒歩5分)

主 催:富田林寺内町をまもり・そだてる会

共 催:富田林市教育委員会

後 援:富田林市・富田林市観光協会・近畿日本鉄道株式会社

問合せ:じないまち交流館 0721-26-0110(午前10時～午後5時/月曜日休)

※駐車場(有料)は数に限りがございますので、近鉄電車等公共の交通機関のご利用をおすすめします。



寺内町サミット ①6

このたび、寺内町を母体として発展した町を有する自治体が集まり、各地域で住民と一体となったまちづくりを行うことを目的に発足した、寺内町まちづくり連絡協議会(大阪府八尾市・大阪府貝塚市・奈良県橿原市・三重県津市・大阪府富田林市)メンバーの協力を得て、全国に先駆けて「寺内町サミット」を開催するものです。

それぞれの自治体と住民が一体となって取り組んできたまちづくりの「過去・現在・未来」にスポットをあて、「未来につながるまちづくり」について考えます。

【主 催】 富田林寺内町をまもり・そだてる会

【会 場】 旧万里春酒造酒蔵

【時 間】 午後1時～5時

【定 員】 100名

【入場料】 無料

【申込み】 往復ハガキで代表者名、人数を記入の上
じないまち交流館までお送りください。

※締め切りは10月31日(金)の消印まで有効

※ただし、申込み多数の場合は、抽選となります。

○河島アナム コンサート

○基調講演「歴史遺産を活かしたまちづくり」

講師: 笠井敏光教授(大阪国際大学)

○参加市プレゼン(八尾市・貝塚市・橿原市・津市・富田林市)

○討論会(寺内町まちづくり連絡協議会行政及び団体代表)



河島アナム

1979年 大阪出身フォーク歌手である故・河島英五の次女。幼い頃から父のステージでバックギター&コーラスとして参加。2000年アナム&マキとして『戦え! 野良犬』でデビュー(2008解散)。2009年娘を出産後、ソロアーティストとして再始動。

興正寺別院大茶会

富田林興正寺別院は、富田林寺内町の中、興正派の寺院で、大阪府内最古(1638年)ははじめとする境内空間が良好に保存され、建造物群保存地区に欠かすことのできない歴史を有する寺院として、本年9月18日に本堂・対馬楼・山門・御成門が重要文化財に指定され、祝して、本堂・境内で盛大に大茶会を催します。

【主 催】 富田林町総代会

【協 力】 富田林市茶華道連盟、植村社

【会 場】 興正寺別院本堂(本席)、境内(茶席)

【時 間】 午前10時～午後3時

【定 員】 500名

【参加費】 200円(お茶・お菓子代)



じないまち燈路 ①5

富田林寺内町をまもり・そだてる会が発足して10年目の平成16年夏から開催した「寺内町燈路」。本年発足20周年を記念して、日本の道百選に選ばれている「城ノ門筋」から旧杉山家住宅までの通りに、約300基の燈路が伝統的な町並みをライトアップし、皆様をお迎えいたします。

【主 催】 富田林寺内町をまもり・そだてる会

【会 場】 城ノ門筋～旧杉山家住宅までの間

【時 間】 午後5時～8時



ジャズ講談「織田作之助と石上露子」 ①5

富田林にゆかりのある織田作之助と石上露子。石上露子は、杉山家の長女、杉山タカさん。寺内町が生んだ明星派歌人。彼女の悲恋の恋をうたった「小板橋」は絶唱と言われる。一方、「夫婦善哉」で有名な織田作(おださく)。戦後まもなく、長姉竹中タツさんの住む富田林に身を寄せ、彼の長編小説となった「土曜夫人」を書き上げた。尺八とピアノのBGMにのって、旭堂南陽さんの講談をお楽しみください。

【主 催】 富田林寺内町をまもり・そだてる会、富田林市教育委員会

【会 場】 旧杉山家住宅

【時 間】 午後6時から7時30分(開場: 5時30分)

【出 演】 旭堂南陽(講談師)、松本太郎(尺八)、河合摂子(ピアノ)

【定 員】 80名

【入場料】 無料

※当日、午前10時からじないまち交流館にて整理券配布



旭堂南陽

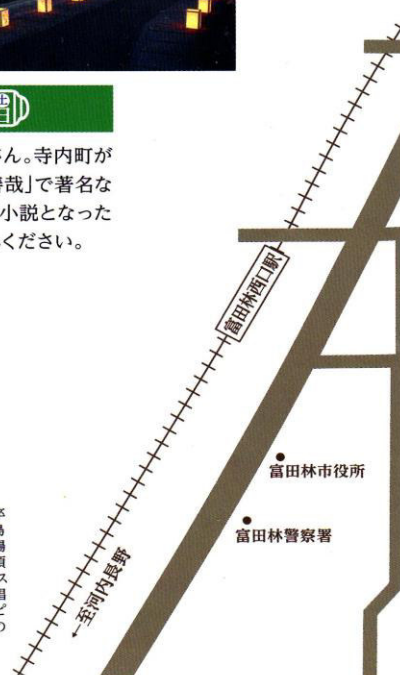
1976年 大阪出身 ポストンで英語講談(NHK WORLDで世界に発信)、ブラジルでポルトガル語講談(ロータリーGSE)、上海で中国語講談等公演。和の講談×洋のJAZZのコラボ、ジャズ講談がライフワーク。

松本太郎

1973年、大阪生まれ奈良育ち。1989年、竹保流のライリー・リー師に師事。オーストラリアのグリフィス大学に在学中、偶然耳にした海童道祖の録音に感銘を受け、尺八演奏家を志す。尺八の普及、伝承に努め、法華寺町に尺八教室を構え、地元根づいた活動として、音声館にて尺八子ども教室の講師、小学校での文化遺産学習においても尺八を指導している。

河合摂子

大阪音楽大学音楽学科作曲科卒業、同大学院修了。作曲を田島亘、藤島昌壽、対位法を十河 陽一、ピアノを辰巳 千里、小室 弥須彦各氏に師事。作品にはオーケストラ、室内楽、オペラ、歌曲、合唱曲、マンドリン合奏等多数。またピアニストとしても活動し、後進の指導も多々おこなっている。



16日

にある真宗(立)の本堂を、要伝統的建の景観を備所・鐘楼・鼓した。これを

1
野点)



子ども縁日 16日

地元の子もだんじり保存会の協力で、子どもから大人までゲームや食をお楽しみください。

【主 催】 富田林町子どもだんじり保存会
毛人谷子供地車保存会
寺内町子どもだんじり保存会

【会 場】 寺内町遊園

【時 間】 午前10時～午後4時

天晴! 秋空コンサート 16日

大阪府立金剛高校吹奏楽部による演奏をお聞かせください。

【主 催】 富田林寺内町をまもり・そだてる会
【会 場】 じないまち展望広場
【出 演】 大阪府立金剛高校吹奏楽部
【時 間】 午前10時30分～11時30分

じないまち散歩 15日・16日

「じないまち散歩」参加店舗で、「祝! 20周年」の飾り付けをして、お祝いいたします。

【会 場】 じないまち界隈のお店

アートクラフトマーケット 16日

アート・クラフト作品の展示、販売、ワークショップ等を開催。富田林でアートな一日をお楽しみください。

【会 場】 本町商店街・中央商店会

【時 間】 午前10時～午後4時

大道芸 16日

【会 場】 みんなの広場

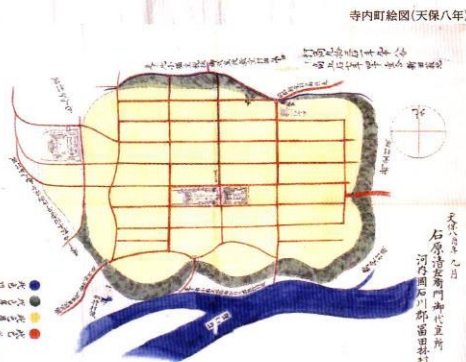
【時 間】 午前10時～午後4時



富田林寺内町

戦国時代の末期、永禄年間(1558~69)に本願寺一家衆興正寺16世証秀上人によって創建された宗教自治都市。周囲に土塁や堀を巡らし、町割や排水路などが計画的に整備されるなど、戦国時代を生き抜くための知恵が随所に生かされています。江戸時代に入ると、石川の河運の発達などにより、「南河内全部の富をあわせても、富田林一町にかなわない」といわれるほどの商業都市として発展しました。

重要文化財旧杉山家住宅や府指定仲村家住宅を始めとする商家の町並みは、往時の繁栄を偲ぶ歴史的な景観を今に伝え、日本の優れた文化遺産として平成9年10月、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。



富田林寺内町をまもり・そだてる会

富田林寺内町をまもり・そだてる会は、平成6年7月に行政とともに会員ひとりひとりが力を合わせて富田林寺内町の伝統ある美しい町並みを守り、豊かなまちづくりを進めることを目的に発足し、本年結成20周年を迎えることとなりました。

この機を記念して、先人の町並み保存への意識を継承し、貴重な町並みを「まもり」ながら、未来に向けて「そだてて」いくため、「未来につなぐ寺内町」をテーマに『富田林寺内町フェスティバル』を開催します。

寺内町サミット ①6回

このたび、寺内町を母体として発展した町を有する自治体が集まり、各地域で住民と一体となったまちづくりを行うことを目的に発足した、寺内町まちづくり連絡協議会(大阪府八尾市・大阪府貝塚市・奈良県橿原市・三重県津市・大阪府富田林市)メンバーの協力を得て、全国に先駆けて「寺内町サミット」を開催するものです。

それぞれの自治体と住民が一体となって取り組んできたまちづくりの「過去・現在・未来」にスポットをあて、「未来につなぐまちづくり」について考えます。

【主催】富田林寺内町をまもり・そだてる会

【会場】旧万里春酒造酒蔵

【時間】午後1時~5時

【定員】100名

【入場料】無料

【申込み】往復ハガキで代表者名、人数を記入の上
じないまち交流館までお送りください。

※締め切りは10月31日(金)の消印まで有効

※ただし、申込み多数の場合は、抽選となります。

584-0033

大阪府富田林市富田林町9-29

じないまち交流館「寺内町サミット係」宛

○河島アナム コンサート
(午後1時~)



○基調講演(午後1時45分~)

「歴史遺産を活かしたまちづくり」
講師:笠井敏光教授(大阪国際大学)

○参加市プレゼン(午後2時45分~)

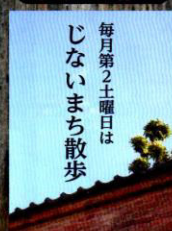
八尾市・貝塚市・橿原市・津市・富田林市

○討論会(午後3時45分~)

寺内町まちづくり連絡協議会行政及び
団体代表

共催

毎月第2土曜日は
じないまち散歩



富田林寺内町の足跡をたどる・・・

1. 富田林のはじまり

富田林寺内町は、永禄初年（1558～61）に、本願寺一家衆興正寺門跡16世証秀上人が、「富田の芝」とよばれる荒芝地を購入し、新堂・中野・山中田・毛人谷の周辺4カ村から各2人ずつ、計8人の庄屋株（八人衆）に興正寺別院の建立と、その境内地を寺内町として計画的に開発することを要請しました。

寺内町は、6筋7町に整然と区画され、周囲にはり巡らされた土塁や、辻を半間ほどずらして見通しを悪くする「あて曲げ」の辻、防火のための「用心堀」など様々な工夫が凝らされた宗教自治都市として成立します。そして、このできあがった町に証秀上人は、「富田林」と名付け、富田林の出発点となりました。



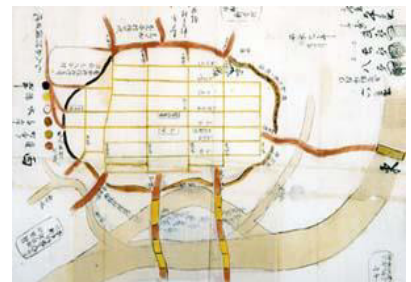
証秀上人

2. 在郷町富田林

しかし、十七世紀になると、創建当時の宗教的な意味合いが薄れ、周辺地域の農産物が集積する東高野街道や千早街道の要衝の地として、また石川の水運を利用した商業活動が盛んな在郷町として発展します。寛文8年（1668）の記録には、寺内町には51職種149店舗が軒を連ねていたと記されています。特に、酒造、木綿、油屋の商いが盛んで、なかでも元禄期（1688～1704）に発達した酒造の繁栄ぶりは、「富田林の酒屋の井戸は、底に黄金の水がわく」という俗謡が幕末に謡われるほどであったといえます。

このように商業が盛んになるにつれて、各地からの情報や新しい文化が伝わるようになり、謡曲や能などの芸術が盛んに行われるようになりました。さらに文芸や学問も盛んで、頼山陽や吉田松陰といった文人墨客も訪れました。

寺内町は、宝暦3年（1753）の村絵図では、6筋7町のままですが、安永7年（1778）の絵地図では、林町が西と東に分かれ、6筋8町となりました。



富田林村絵図

3. 明治時代から昭和初期の寺内町

寺内町の隆盛は、この時代にも続きます。南河内の中心として、郡役所や警察署が富田林に移転され、明治31年4月に柏原・富田林間をつなぐ河陽鉄道が開通しました。明治22年に発行された「河内国商工便覧」には、寺内町の木綿商や木材商、清酒醸造所などが数多く紹介されています。富田林が「町」になったのもちょうどこの頃（明治29年）です。

そんな時代の流れを物語るかのように、蒸気機関車、自動車レース、ビリヤードを楽しむ人々、バイオリンを弾く女性など、モダンな町の風景の記録が残されています。そんな時代に、明星派歌人石上露子は、杉山家の長女として誕生します。富田林の進取の気性を

象徴する石上露子は、絶唱とよばれる「小板橋」をはじめ、数多くの歌を残しています。

しかし、鉄道が開通し、近代化の波が押し寄せてくると、人の流れは徐々に寺内町から駅前へと移っていきます。かつて「寺内町瓦版」で取り上げられた昭和10年代の「昔あったあの店 この店」という記事からは、依然として寺内町に多くの商家が並んでいたことがわかります。昭和20年代でも、寺内町と周辺に映画館が4館あり、芝居やダンスが楽しめた町でしたが、その後、次第に商業の町から静かな生活の町へと変化していきます。

4. 町並み保存の始まりから重要伝統的建造物群保存地区へ

以上のような歴史をたどってきた寺内町は、創建当時の6筋7町(後に6筋8町となる)の町割が残るとともに、近世の重厚な商家が数多く残り、歴史的な町並みを今に伝えています。

その貴重な町並みに最初に着目されたのが、林野全孝氏(現京都府立大学名誉教授)で、昭和32年に大阪府教育委員会の委託により町家を調査し、昭和42年には「富田林の町と町家の建築的変遷」という論文にて寺内町を取り上げています。

さらに、昭和47年には、高田昇氏(現立命館大学客員教授)らによって「富田林寺内町保全構想」が提案され、町として保存運動の機運が生まれました。同年12月には、杉山家に8人の住民が集まって準備会がもたれた後、翌昭和48年の1月20日には「富田林寺内町をまもる会」が約50人の参加者で結成されます。

そして、昭和49年には、富田林市が文化庁の補助を受けて、全国に先駆けて「寺内町保存対策調査」を実施し、昭和58年には、杉山家住宅を富田林市が買収し、保存することになりました。また同年12月には、杉山家住宅が国の重要文化財に指定されます。

その後、昭和62年には「富田林寺内町町並み保全要綱」が施行され、富田林市による町家の修理・修景事業がスタートしました。また同年、杉山家住宅の一般公開も始まりました。そして平成3年には、寺内町のまちづくりの拠点として「寺内町センター」も設立されました。

しかし、同年に、伝統的建造物群保存地区保存条例が公布されるも、伝統的建造物群保存地区指定は進まず、「まもる会」のまちづくり活動も沈静化していきます。

そこで、平成6年に寺内町の保存をさらに進めるために結成したのが、「富田林寺内町をまもり・そだてる会」です。「まもり・そだてる会」は、会員253名でスタートし、その結果、町並み保存への機運が少しずつ高まり、「まもる会」結成から24年後、「まもり・そだてる会」結成から3年後の平成9年10月によりやうく重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。

「まもり・そだてる会」結成以降は、平成9年発足の地元住民からなる「じないまち・ボランティアガイドの会」による活動や、「まもり・そだてる会」の会員見学会や理事研修会などを通じた各地保存地区との交流会や女性会員による交流事業など、地元住民を主体とするまちづくり活動も盛んになってきました。

そして平成16年10月には、「まもり・そだてる会」設立10周年を祝して、「富田林寺内町フェスタ」として、行政と地元住民が一体となって、城之門燈路やコンサート、講演会とパネルディスカッション、琴の演奏、アート展、きり絵展、町家カフェなど様々な

催しが開催されました。また、これ以降、城之門燈路は、寺内町燈路として、毎年8月に開催されるようになりました。

5. 「賑わい」と「おちつき」のあるまちづくりを目指して

平成17年からは、景観舗装路や景観街路灯設置工事が始まり、個々の町家の修理・修景だけではなく、町並み全体の景観整備も進みました。

平成18年4月には、地元住民の交流の場として、また来訪者の休憩場所、情報提供の場として、「じないまち交流館」がオープンしました。

平成19年3月には、女性住民や商店主などからなる「じない市実行委員会」主催の「雛めぐり」が開催され、寺内町界隈は多くの来訪者で賑わいました。これを契機に、翌平成20年1月には、地元住民、商業者、団体、行政が連携して、「富田林駅南地区まちづくり協議会」が設立され、歴史と文化に調和した「賑わい」と「おちつき」のあるまちづくりを目指すことが確認されました。また「寺内町四季物語」として、これまでの春の「雛めぐり」や夏の「寺内町燈路」に加えて、秋の「後の雛まつり」、冬の「新春初鍋めぐり」が四季折々に開催されることになり、今日に至っています。

また、四季物語の開始と前後して、歴史と文化を感じさせる町並みや適度な賑わいに惹かれて、寺内町に住みたいとか、お店を開きたいという若い人達も現れてきました。

平成22年4月には、「じないまち展望広場」がオープンし、来訪者への休憩場所の提供や住民の親睦を兼ねた「月見の会」などの開催場所として使用されています。

平成22年以降は、「四季物語」のイベント以外にも、「一般社団法人 富田林じないまち文化トラスト」主催による「じないまち散歩（毎月第2土曜日）」のイベントとして、「じないまち古書散歩（5月）」や「紫陽花まつり（6月）」、その他、各種団体・法人による「農とクラフトフェア」、「アートクラフトマーケット」、「楽食楽町じないまち」、「古民家ライブ」などのイベントが開催されています。

これらのイベントへの参加や協力により、住民も寺内町の歴史と文化への理解を深めると共に、自らもイベントを楽しみ、また来訪者を歓迎する雰囲気も出てきたように感じます。

近年、高齢化と少子化の影響で人口や世帯数も減少傾向にあり、町家が空家となる場合も増えつつありますが、平成21年に地元有志が中心になって設立された「LLPまちかつ（有限責任事業組合 富田林町家利活用促進機構）」により、町家所有者とテナント希望者を仲介して、町家の利活用が促進され、活気を取り戻してきています（現在までに42軒の新店舗や住居が誕生）。しかし一方、残念ながら伝統的建造物の町家を取り壊し、新しい住宅に建て替える若い世代も出てきています。

このような状況のもと、平成26年9月に、興正寺別院が国の重要文化財に指定されました。そして解体修理も行われる予定です。また、富栄戎神社（伝統的建造物）の保存修理事業に「まもり・そだてる会」も取り組んでいこうとしています。

富田林寺内町のシンボルが再生されることを契機に、「賑わい（適度な観光地化）」と「おちつき（良好な生活環境）」の両立と地域の活性化に向け、20年間の経験を活かし、寺内町を「まもり」「そだてる」活動を会員の皆さん共に発展させましょう。

富田林寺内町をまもり・そだてる会

20年のあゆみ

平成6年	
7月	富田林寺内町をまもり・そだてる会を結成（会員253名） 7月17日 市立中央公会堂で設立総会（以後、毎年5月に総会）
8月	瓦版1号発行（以後、概ね年に3回発行）
12月	寺内町切り絵カレンダーの発行を開始（以後、毎年12月に発行）
平成7年	
1月	重要文化財杉山家住宅見学会（1月16～18日）
3月	会員見学会 奈良県橿原市今井町
9月	寺内町清掃を始める（以後、年1回実施）
9月	全国町並みゼミ 長野県南木曽町（9月8日～10日）
9月	理事研修会 名古屋市有松町
10月	会員見学会 三重県関宿関町（現在、亀山市）
平成8年	
8月	理事研修会 愛知県犬山市
9月	全国町並みゼミ 愛知県犬山市北地区（9月28日～30日）
10月	会員見学会 兵庫県龍野市
平成9年	
3月	富田林市が「富田林寺内町」を伝統的建造物群保存地区に指定
5月	全国町並みゼミ 新潟県村上市（5月6日～25日）
6月	奈良県奈良町を見学（理事会）「奈良まちづくりセンター」と交流会
7月	理事研修会 徳島県脇町 「阿波脇町南町 町並み保存会」と交流会
8月	第14回大阪府まちづくり功労者賞を受賞
10月	会員見学会 滋賀県大津市坂本
10月	富田林寺内町が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定（10月31日）
11月	「富田林寺内町ボランティアガイドの会」が発足 （寺内町歴史の講話や町並み案内を始める）
11月	大阪府主催・大阪美しい景観づくり推進会議が寺内町を見学、講師派遣

平成 10 年	
1 月	「昔あったあの店この店」瓦版編集懇談会開始（13 年まで 5 回開催）
2 月	瓦版 10 号 発行を迎える
4 月	重要伝統的建造物群保存地区選定記念事業 ～歴史講演会（井沢元彦氏「信長とその時代」）～
6 月	「第 16 回まちづくり月間建設大臣賞」を受賞
7 月	ふるさとカルタ（富田林小学校）の作成協力
8 月	理事研修会 奈良県橿原市今井町
11 月	会員見学会 三重県松阪市
平成 11 年	
9 月	理事研修会 兵庫県赤穂市坂越
10 月	会員見学会 滋賀県五個荘町
11 月	女性会員交流事業始まる（第 1 回は、切り絵ハガキ講習会）
平成 12 年	
9 月	理事研修会 滋賀県近江八幡市
10 月	会員見学会 兵庫県篠山市
12 月	女性会員交流事業（アートクレイシルバー）開催
平成 13 年	
5 月	「富田林寺内町お食事処まっぷ」を発行
9 月	瓦版 20 号 発行を迎える
9 月	理事研修会 福井県上中町熊川宿
10 月	会員見学会 兵庫県出石町
11 月	女性交流事業（陶芸一日体験）開催
平成 14 年	
9 月	理事研修会 奈良市ならまち
10 月	会員見学会 和歌山県湯浅町
11 月	女性会員交流事業（ちぎり絵体験）開催
平成 15 年	
4 月	寺内町見学者にアンケートを開始（～3 月 31 日）
4 月	瓦版号外発行
5 月	「クラフトアート・フェアじないまち」に協力（5 月 3 日～5 日） 講演「寺内町の登録文化財」、オカリナ演奏、 旧家や施設等で展示やワークショップ
10 月	理事研修会 奈良県橿原市今井町
11 月	会員交流事業（陶芸 1 日体験）開催
11 月	会員見学会 滋賀県長浜市

平成 16 年	10 月 行灯制作ワークショップを開催（富田林小学校体育館） 10 月 「じないまちフェスタ（富田林寺内町をまもり・そだてる会 10 周年記念）&クラフトアート・フェア 2004」を開催（10 月 10 日～11 日） 基調講演「歴史的文化財と共生する優れた住民活動と文化資源の活用」 城之門燈路〔後に、じないまち燈路（第 1 回）〕、 他に、琴の演奏、アート展、町家カフェ、きり絵展等
平成 17 年	7 月 瓦版 30 号発行を迎える 8 月 第 2 回寺内町燈路（8 月 28 日） 10 月 会員見学会 滋賀県彦根市 11 月 理事研修会 神戸市北野地区 会員交流事業（秋のガーデニング講習会） ボランティアガイドの研修会（京都市東山区、上賀茂）
平成 18 年	4 月 じないまち交流館開館 6 月 「じない市」始まる（毎月、第 2 土曜日） 寺内町を歩きながら、各店の催しやスイーツ、四季折々のイベントを楽しんでいただく。 8 月 第 3 回寺内町燈路（8 月 27 日） 8 月 真夏の夜の音楽会開催（じないまち交流館にて弦楽 4 重奏） 10 月 会員見学会 滋賀県近江八幡市 11 月 理事研修会 奈良県宇陀市松山地区 12 月 富田林寺内町が「大阪町並み 100 景」に選定される（大阪府主催）
平成 19 年	3 月 じない市実行委員のメンバーが中心となり、「じないまち雛めぐり」（第 1 回）を企画、実施 5 月 じない市実行委員会が第 5 回日本都市計画家協会賞関西支部賞を受賞 8 月 第 4 回寺内町燈路（8 月 26 日） 10 月 理事研修会 興正寺本山・京都東山 11 月 重要伝統的建造物群保存地区選定 10 周年記念行事開催（11 月 10 日） （於、杉山家住宅、じないまち交流館、寺内町センター） 11 月 会員見学会 京都伏見区・平等院
平成 20 年	1 月 富田林駅南地区まちづくり協議会が発足 （地元住民、商業者、団体、行政が連携して）（平成 25 年 3 月の様子） <u>歴史・文化に調和した「賑わい」と「おちつき」のあるまちづくりを目指す。</u> 各部会や広報事務局を設置、イベント毎に実行委員会をもつ。



じないまちフェスタ



じないまち雛めぐり

2 月	富田林寺内町が「美しい日本の歴史的風土 100 選」に選定 (古都保存財団主催)
3 月	寺内町四季物語が始まる。 これまでのじないまち燈路や雛めぐりに加えて、四季折々のイベントを開催。 積極的に情報発信 ① 春：じないまち雛めぐり (3 月第 2 土、日曜) 民家や商店、まちかど約 100 ヶ所にお雛様を飾り、春の節句を祝う。 ひな祭りにふさわしいコンサートや茶会、バザーなど賑やかなイベントも。 ② 夏：じないまち燈路 (8 月の最終土曜日) 寺内町や駅南地区の主要な通りに、約 1,000 個の行灯を並べる。 コンサート、茶会と琴の夕べ、富田林の今昔スライドの上映会など。 ③ 秋：後の雛めぐり (10 月第 2 土曜) 後の雛は江戸時代より関西を中心に行われていた重陽の節句の 行事で、菊花とお雛様を飾る。 ④ 冬：新春初鍋めぐり (1 月 10 日前後) 鍋物や模擬店の出店、参加団体 20 有余
7 月	瓦版 40 号発行を迎える
9 月	ボランティアガイドの会研修会 奈良市奈良町
10 月	理事研修会 兵庫県篠山市
11 月	会員見学会 三重県関市関宿
平成 21 年	
1 月	「富田林じないまち」「城之門筋」「寺内町四季物語」が大阪ミュージアム登録 物に認定。
6 月	当会及び富田林市が都市景観大賞「美しいまちなみ優秀賞」を受賞
9 月	「LLP まちかつ」設立 (町家や空家の活用) LLP まちかつ：有限責任事業組合 富田林 町家利活用促進機構
10 月	理事研修会 和歌山県湯浅町
11 月	会員見学会 兵庫県姫路城
平成 22 年	
4 月	じないまち展望広場オープン
9 月	「じないまち散歩」(毎月、第 2 土曜日) 従来の「じない市」を発展的に改称。 この町並みの魅力を発信し、季節の風物詩を楽しみながら散歩していただく。 主なイベント： 四季物語の他、端午の節句、紫陽花祭り、七夕祭り、古民家ライブなど。 (各店の催しや限定スイーツ等を紹介したマップを用意)
9 月	ボランティアガイドの会研修会 奈良県五条市
10 月	理事研修会 滋賀県大津市坂本
11 月	会員見学会 三重県津市一身田町



新春初鍋めぐり
(平成 26 年 1 月の様子)



じないまち展望広場

平成 23 年 6 月 9 月 9 月 10 月 11 月	第 1 回石上露子生誕祭開催される。地域に新たにできた店舗や工房も参加。 寺内町月見の夕べ（月見の会）開催（以後、毎年 9 月に開催） 理事研修会 奈良県五條市新町 会員見学会 京都府南丹市美山町 瓦版 50 号発行を迎える。
平成 24 年 4 月 6 月 10 月 11 月	「じないまち木くま館」開館 第 2 回石上露子生誕祭開催（生誕 130 年記念） 理事研修会 京都市嵯峨鳥居本 会員見学会 徳島県美馬市脇町
平成 25 年 5 月 9 月 11 月	富田林駅南地区まちづくり協議会は初期の目的を終え解散 イベント等は四季物語実行委員会が引き継ぐ。 会員見学会 福井県若狭熊川宿 理事研修会 滋賀県東近江市五個荘
平成 26 年 9 月 9 月 11 月	富田林興正寺別院が国の重要文化財に指定 会員見学会 滋賀県長浜市黒壁スクエア 富田林寺内町をまもり・そだてる会結成 20 周年記念事業： 「富田林寺内町フェスティバル」開催（11 月 14 日～15 日） 寺内町サミット（於、旧万里春酒造酒蔵）： ・河島アナム コンサート ・基調講演「歴史遺産を活かしたまちづくり」 講師：笠井敏光大阪国際大学教授 ・参加市プレゼン（八尾市、貝塚市、橿原市、津市、富田林市） ・討論会（寺内町まちづくり連絡協議会行政及び団体代表） じないまち燈路 ジャズ講談「織田作之助と石上露子」 興正寺別院大茶会 天晴！秋空コンサート（展望広場で府立金剛高校吹奏楽部による演奏） 子供縁日
平成 27 年 3 月	瓦版 60 号発行を迎える。



第 2 回露子生誕祭
(生誕 130 年記念)



興正寺別院大茶会
(寺内町フェスティバル)

「富田林寺内町フェスティバル」

各イベントの報告

11月15日(土)、16日(日)に、当会結成20周年を祝して、富田林寺内町を中心に「寺内町フェスティバル」が開催されました。

15日の夜には、城之門筋から旧杉山家住宅まで「じないまち燈路」が、旧杉山家住宅では「ジャズ講談：織田作之助と石上露子」が開催されました。

16日には、興正寺別院にて「大茶会」、展望広場では「天晴！秋空コンサート」が、旧万里春酒蔵では「寺内町サミット」など様々な催しが開催されました。

両日とも好天に恵まれ、町中は、普段より多くの住民や来訪者で賑わいました。両日のフェスティバル参加者は、計約2,000名でした。

■会員家庭への「タオル」と「旗」の配布

【主 催】富田林寺内町をまもり・そだてる会

会員家庭には、20周年を共に祝福するために、下の写真のような20周年記念のタオルと旗を事前に配布しました。11月15日、16日の寺内町フェスティバル当日には、会員自らが20周年を祝福し、また来訪者を歓迎するために、20周年記念旗が各ご家庭に掲揚・設置されました。



20周年記念タオル



20周年記念旗



20周年記念旗の設置



20周年記念旗が寺内町のあちらこちらに掲揚されました。

■寺内町サミット～未来につなぐ寺内町～

寺内町を母体として発展した町を有する自治体が集まり、各地域で住民と一体となったまちづくりを目的に発足した、「寺内町まちづくり連絡協議会」（大阪府八尾市・大阪府貝塚市・奈良県橿原市・三重県津市・大阪府富田林市）メンバーの協力を得て、全国に先駆けて「寺内町サミット」を開催しました。

それぞれの自治体と住民が一体となって取り組んできたまちづくりの「過去・現在・未来」にスポットをあて、“未来につなぐまちづくり”について考えました。参加者は約100名でした。

【主 催】 富田林寺内町をまもり・そだてる会

【会 場】 旧万里春(ばんりのはる)酒造酒蔵

【開催日時】 平成26年11月16日(日) 13:00～17:00

○河島アナムコンサート

13:00～14:00

【出 演】 ギター : 河島アナム

サクソ : 岡嶋直樹

ピアノ : 溝口幸子

河島アナムさんは、フォーク歌手の父（故・河島英五氏）の次女で、幼いころから父のステージでバックギター・コーラスとして活動されていました。

100人以上の観客の手拍子とアナムさんの歌・演奏が一体となった和やかなコンサートが終わろうとしたとき、客席からアンコールの声援が沸き起こり、アナムさんが選んだ英五氏の代表曲「酒と泪と男と女」の歌で、大喝采の内にコンサートは終わりました。



河島アナムさんのコンサートの後、約30分にわたって、「歴史遺産を活かしたまちづくり」と題して、笠井氏に講演していただきました。

○基調講演「歴史遺産を活かしたまちづくり」

14:05～14:35

講演者：大阪国際大学教授 笠井敏光氏

■印象に残ったこと

保存修景と動態保存：

・建物だけ残せば良いのではなく、建物の中で住民が生活をして、それを他の人が体感することが大事。

・「コミュニティ・ミュージアム」：町全体を博物館に見立てるというものですが、皆様のお家で昭和

30年代、40年代に使っていた物が、今は宝物なのです。それらを持っていて頂いて、調査を行い、それらを集めて、例えば〇〇さんの家では昔は河内木綿の木綿商をやっていたなどとして展示するのです。

観光地化をめざすのか：

・集客型観光（マストツーリズム）から生活型観光（ライフツーリズム）：建物だけでなく、その中に



住んでおられる皆様の生活が観光資源。見学から経験するまちなみへ。

開かれたまちづくり：

・まちづくりの再構築（寺内町でのみ対応出来ること）：お寺を中心に地域で子育てをするということです。この様なことをやっていくことで個性のあるまちなみになっていきますし、そこには町の人々が自分の子供をみてくれる、近所の人たちが自分の孫の名前を覚えてくれている、少し昔の生活が非常に良いのではないかと。これが新しい住民を受け入れる母体になるのではと思います。

歴史遺産を活かしたまちづくり：主体性、個性、自立性、持続性、地域性

・「寺内町再生」＝「新寺内町」の提案：

①お寺を中心にまちなみがあるのは寺内町だけ。しかし行政とお寺と地域住民が上手に連携をとっているところは少ないのではないのでしょうか。これは寺内町共通の課題。お寺を中心にもう一度考えてほしい。大きなお寺には大きな庭があります。大きな広場があります。そこを防災上の逃げ場、空き地、子供達の遊び場や寺子屋、そういうものとして、もう一度復活してもらおう。行政も、もう一度考え直す必要があると思います。

②もう一つ、地域の住民組織の課題です。町会、寺内町の内と外、古い建物の所有者とそうでない方、不動産を売買・紹介する組織、商人の組織、ボランティアガイドさん。これらの人々をいかに上手にまとめて一つの方向にもっていくかが、どこの寺内町にも問われています。許されるならば第3組織＝第三者が必要ではないか。私の様な人達が皆さんを繋いでいって、文化をプロデュースする、文化を繋ぎ合わせていく、そういう役割の人達が必要ではないかと思っています。

上記基調講演に続いて、20分の休憩の後、主催者側の挨拶、来賓のご挨拶、今回参加頂いた各市寺内町のプレゼンテーションが行われました。詳細内容につきましては、後半の「第二部 資料集1」、「第三部 資料集2」を参照ください。

○主催者代表の挨拶 富田林寺内町をまもり・そだてる会会長 橋川光司 14:55

○来賓のご挨拶 富田林市副市長 谷口勝彦氏 15:00

○参加各市寺内町のプレゼンテーション 15:05～15:55

上記の各市寺内町プレゼンテーションに続いて、「未来につなぐ寺内町」と題して、参加5市の代表者による討論会が行われました。

○討論会「未来につなぐ寺内町」 16:00～16:45

進行：大阪国際大学教授 笠井敏光氏

パネラー：【富田林】 富田林市生涯学習部文化財課課長 中辻 亘氏

富田林寺内町をまもり・そだてる会会長 橋川 光司氏

【久宝寺】 久宝寺寺内町まちづくり推進協議会理事 近藤 廣之進氏

久宝寺寺内町まちづくり推進協議会理事 谷浦 政男氏

【貝塚】 貝塚市教育部社会教育課課長 前田 浩一氏

【今井町】 橿原市生涯学習部今井町並保存整備事務所所長 日裏 康夫氏

【一身田】 津市生涯学習課文化財担当主幹 米山 浩之氏

各寺内町の特徴

富田林： 富田林御坊を中心とし河岸段丘を利用した土塁で囲まれた町

貝塚： 貝塚御坊のご住職が領土の長として存在する藩のような町

久宝寺： 久宝寺御坊を中心とし二重の土塁と環濠に囲まれ、町割りが完全に残る町
一身田： 専修寺が町の1／3以上の面積を占め、町を囲む環濠がほぼ完全に残る町
今井町： 室町時代の町割りが残る環濠集落の町

現在の課題とその解決策

各市から高齢化、若者不足、空家の増加等の課題と対策が述べられました。それを受けて、笠井氏から「各市寺内町に共通した課題は空家対策であり、その際、建物だけを残してもしかたがない。そこで生活をして頂く。そのためにどうやっていくかということです。それを解決することはできるだろうと思っていますので、これから一緒に考えていきたいと思っています。」という主旨の発言がありました。



今後のまちなみの整備

今後のまちなみ整備については、これまでに概ね、建物・道・景観等のハード面については終わっているという意見が多数でした。これを受けて笠井氏からは、以下の発言がありました。「今後のまちなみをハード面で言いますと、おおまかな所では道であるとか、景観とかはほぼ完了したというところであるかなと思います。後は個別の家の修復になっていくわけです。そう考えると寺内町も今までのようなハードだけではなくて、ハードからソフトへの時代なのかなと思います。それには、特に中に住む人のあり方も考えていかなければいけないと思います。」

何を次世代に引き継ぎたいか

各市から、次世代に伝えたいものとして「住み続けたいと思えるような寺内町を残そうという意識」「寺内町の雰囲気」「(健康に役立つ段差という特徴がある)町屋の特性を持つ建物」等の意見が出ました。

人のつながりについて

色々なイベントを通じて人と人のつながりもある程度、復活・定着してきているという意見が多く聞かれました。

まちの将来像について

各市からは、共通して、「自分たちが住んで気持ち良く、適度な観光地化が良い」という主旨の意見が聞かれました。

未来につなぐ寺内町とは

最後に、笠井氏から、『未来につなぐ寺内町』ということで、5つの寺内町の第一線で仕事をしておられる市役所の方と住民の方に来て頂いて議論をさせて頂きました。色々な問題が出てきたなと思います。空家・少子化・高齢化など色々ありましたが、きっと展望があります。『寺内町に未来はあります！』と私は言いたい。それを一緒に考えていきたいと思っています。それでは5つの寺内町の関係者の方に、拍手を送って頂きたいと思います。ありがとうございました。」との発言がありました。

○閉会の挨拶 富田林寺内町をまもり・そだてる会事務局次長 中井隆洋

16:50

以上で、約1時間の河島アナムさんのコンサートと、20分間の途中休憩を含めて、計約4時間に渡る寺内町サミットは、終了しました。

■ じないまち燈路

- 【主 催】 富田林寺内町をまもり・そだてる会
【会 場】 城之門筋～旧杉山家住宅までの道
【開催日時】 平成26年11月15日(土) 18:00～19:30



富田林寺内町をまもり・そだてる会を結成して10年周年の平成16年夏から開催した「寺内町燈路」。本年結成20周年を記念して、日本の道百選に選ばれている「城之門筋」から「旧杉山家住宅」までの通りに、会員の手作りによる約300基の行灯が並べられました。行灯は夜が深まるほどに色づき、伝統的な寺内町の町並みをライトアップしました。こうして会員自らが、結成20周年を祝福するとともに来訪者をお迎えしました。

■ ジャズ講談「織田作之助と石上露子」

- 【主 催】 富田林寺内町をまもり・そだてる会、富田林市教育委員会
【会 場】 旧杉山家住宅
【開催日時】 平成26年11月15日(土) 18:00～19:30
【出 演】 旭堂南陽(講談)、松本太郎(尺八)、河合摂子(ピアノ)

富田林にゆかりのある織田作之助と石上露子。露子は、杉山家の長女、杉山タカさん。寺内町が生んだ明星派歌人。彼女の悲恋の恋を歌った「小板橋」は絶唱といわれています。一方、「夫婦善哉」で有名な織田作(おださく)。戦後まもなく、長姉竹中タツさんの住む富田林に身を寄せ、彼の最後の長編小説となった「土曜夫人」を執筆しました。



当日は、旭堂南陽さんの講談のBGMとして、尺八とピアノが演奏されました。特に、曲に応じて何種類もの尺八を用いた松本太郎さんの演奏が、河合摂子さんの奏でるどのジャズ曲目にも、非常によく合った音程とリズムを奏でていることに驚かされました。また、南陽さんの講談による織田作を絡めた石上露子の一生の物語が、寺内町最大にして最古の旧杉山家住宅の土間という空間と相まって、非常に文化の香り高い時間を過ごさせて頂きました。

■天晴！秋空コンサート

- 【主催】富田林寺内町をまもり・そだてる会
【会場】じないまち展望広場
【開催日時】平成26年11月16日(日)10:30～11:30
【出演】大阪府立金剛高等学校吹奏楽部

天候にも恵まれ、正に「天晴！秋空コンサート」にふさわしい日となりました。用意された60席近い椅子席も満席となり、周囲を囲むように立ち見の方も多く見受けられました。



金剛高校吹奏楽部からは、顧問の先生の指揮のもと、部員16名の方が参加、10時30分からコンサートが始まりました。皆さんご存知の懐かしい曲も何曲か演奏され、親しみのある楽しい雰囲気を感じて頂いたように思います。間に休憩をはさんで、11時30分には大きな拍手に包まれ、コンサートが終了しました。金剛高校の皆様には、素晴らしい演奏を聞かせていただき、心からお礼を申し上げます。

■興正寺別院大茶会

- 【主催】富田林町町総代会
【協力】富田林市茶華道連盟(茶席)、植村社中(琴)
【会場】興正寺別院本堂(本席)、境内(野点)
【開催日時】平成26年11月16日(日)10:00～15:00

富田林興正寺別院は、富田林寺内町の中央部にある真宗興正派の寺院で、大阪府内最古の本堂をはじめとする境内空間が良好に保存されており、平成26年9月18日に国の重要文化財に指定されました。



今回、会結成20周年と当院の重要文化財指定を祝して、本堂と境内にて富田林町町総代会の主催のもと、市茶華道連盟と植村社中の皆様の協力を得て、盛大に大茶会が開催されました。来場された方々は、本堂内では、お琴の演奏をバックに本席を堪能しながら、襖絵や欄間などを熱心に鑑賞されていました。また境内では、野点のお点前や景色を見ながらお茶とお菓子を堪能されていました。当日用意したお菓子500人分が午後3時までになくするという盛況ぶりでした。

■子ども縁日

【主催】 富田林町子どもだんじり保存会

毛人谷子供地車保存会

寺内町子どもだんじり保存会

【会場】 寺内町遊園

【開催日時】 平成26年11月16日(日) 10:00～16:00

やや肌寒かったものの秋晴れに恵まれた天候の中、地元の子もだんじり保存会(3団体)の協力により、「子ども縁日」が開催されました。子どもから大人までゲームや食を楽しみました。



■アートクラフトマーケット

【主催】 本町通り商店会

【会場】 本町公園・ちびっこ交通公園

【開催日時】 平成26年11月16日(日) 10:00～16:00

寺内町に通ずる既存の商店街が活気付くことを目指して、「まちなかアートクラフトマーケット」と題して、手づくり物づくりをしている人の出展の協力や若者を中心としたアイデアを生かして、本町公園やちびっこ交通公園にて、飲食ブースやライブ・大道芸と多彩な催を企画しました。

今回は、寺内町フェスティバルとの同時開催で、年齢層の幅が広がり、多くの方が来訪してくださったようです。



アートクラフトマーケットは、今回で2回目となりましたが、会を重ねていくことで商店主の意識が変わり、この地域で商いをしたいと願う仲間が増え、寺内町はもちろんのこと、周辺の商店街が活気付き、次世代に繋がる町になっていくことを願って、今後も微力ながらこちらの活動も続けたいと思います。

第二部 (資料集1)

富田林寺内町をまもり・そだてる会結成20周年記念事業

“富田林寺内町フェスティバル” から

『寺内町サミット～未来につなぐ寺内町～』 詳細記録報告書

目次

	頁
[1] 基調講演「歴史遺産を活かしたまちづくり」・・・・・・・・・・	2 4
< 1 >はじめに	
< 2 >キーワード	
< 3 >課題と展望	
< 4 >歴史遺産を活かしたまちづくり	
[2] 主催者代表の挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3 0
[3] 来賓のご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3 0
[4] 参加各市寺内町のプレゼンテーション・・・・・・・・・・	3 1
< 1 > 富田林　「富田林寺内町フェスティバル『寺内町サミット』 における富田林寺内町紹介」	
< 2 > 久宝寺　「住み続けたいまちづくりをめざして」	
< 3 > 貝塚 「貝塚御坊願泉寺を中心とした自治都市」	
< 4 > 今井町　「今井町のまちなみ」	
< 5 > 一身田　「津うコレ！　一身田寺内町をまちあるき」	
[5] 討論会「未来につなぐ寺内町」・・・・・・・・・・・・・・・・	4 2
< 1 > 各寺内町の特徴	
< 2 > 現在の課題とその解決策	
< 3 > 今後の町並みの整備	
< 4 > 何を次世代に引き継ぎたいか	
< 5 > 人のつながりについて	
< 6 > まちの将来像について	
< 7 > 未来につなぐ寺内町とは	
[6] 閉会の挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4 7

『寺内町サミット～未来につなぐ寺内町～』

年月日時： 2014年（平成26年）11月16日（日）13:00～17:00

会 場： 旧万里春(ばんりのはる)酒造酒蔵

寒波が押し寄せ、今年一番の寒さとなった11月15日(土)16日(日)寺内町フェスティバルが行われ、その中のメインイベントとして、寺内町サミットが16日(日)に、代々「万里春」を酒造されてきた石田家の酒蔵を会場として、参加者約100名のもと、開催されました。

今回のサミットの目的は、参加頂いた自治体と住民が一体となって取り組んできたまちづくりの「過去・現在・未来」にスポットを当て、“未来につなぐまちづくり”について考えるというものです。

当日の寺内町サミットのプログラムとしては、まず、13:00～14:00の河島アナムさんのコンサートがあり、その後、基調講演として、大阪国際大学の笠井敏光教授による「歴史遺産を活かしたまちづくり」の講演がありました。次に富田林寺内町をまもり・そだてる会の橋川会長、続いて富田林市の谷口副市長の挨拶がありました。続いて今回参加頂いた八尾市、貝塚市、橿原市、津市及び富田林市の5市の代表者によるプレゼンテーションがあり、最後にこれら5市の代表者による討論会がありました。

(なお、この記録文書では、河島アナムさんのコンサートについては割愛しています。)

〔1〕基調講演「歴史遺産を活かしたまちづくり」

講演者：大阪国際大学教授 笠井敏光氏

〈1〉はじめに

今、河島アナムさんによるコンサートがありましたが、このような酒蔵がコンサート会場に変わります。残響音というのですが、非常に音が良く響きます。このようなことは文化遺産があるから出来るのです。

私は現在大阪国際大学にいますが、元々は羽曳野市教育委員会にいまして埋蔵文化財の調査や古墳の調査を行っていました。ある時、下ばかり見て歩いていることに気がつきまして、上を見て歩こうと思い、以来、建造物の活用を考えてみようと思って活動しています。

〈2〉キーワード

キーワードとは鍵になる言葉の事です。

①文化・文化資本(資源)・文化遺産・文化財・埋蔵文化財

文化とは人間の営み全部のことをいいます。従って、「人」と「文化」はイコールと思って良いと考えています。私は埋蔵文化財が専門だったのですが、「埋蔵文化財→文化財→文化遺産→文化」というように広げて行くのが大切だと思っています。この酒蔵も昭和59年から未使用の状態と聞いています。このまま放置しておくと、ただの空間になってしまいます。今あったようなコンサート会場になれば、この酒蔵が生き返ることになる。再生することになる。このようなことが大事だと思っています。

②人→思考→行動→文化→文化遺産→再生→還元(人に戻す)

還元とは人に戻すということです。コンサートがあつて「アナムさん」が歌われました。「感動を皆様に」分け与えた。これが人に戻すということです。この様なことが大事です。これが文化の流れです。文化の流れは「ゼロ」からは生まれません。〈1〉から〈2〉、〈2〉から〈3〉としてつながって行くのです。積み重ねが大切です。この酒蔵も江戸時代からあるのですから100年以上続いています。これからはこの様な形で活用されると思っています。

③遺産(残したいもの)・世界遺産・地域遺産・市民遺産

皆さんは沢山の財産をお持ちです。自分の財産を自分が亡くなったらどうしようかと思うのも遺産ですが、遺産というのは人として将来残したい物、たとえば、隣の羽曳野市・藤井寺市は古市古墳群を世界遺産にしようとしています。世界遺産もいいのですが、地域遺産、市民遺産と呼ばれるような物を残していきたいと思います。この酒蔵もそうですが、富田林寺内町全体を残したい。今日、この寺内町を見て回ると大阪芸術大学の学生さんが、芸術品などを販売している。若い人にとってもこういう町は魅力的な町なのです。古くさいから若い人が来ないと思われそうですが、古い物が若い人にとってみれば新しいものなのです。この様な視点で考えるのが大事なことだと思います。

④文化遺産マネジメント(発見・調査・保存・再生・創造・活用・監視)

「発見→調査→保存→再生→創造→活用→監視」この様な流れでマネジメント(経営)をして行くことが大事で、何となくあればいいなというのではなく、どの様に活用すればよいかを考えることが大切だと思います。

⑤文化的景観(史跡・名勝・天然記念物・伝建・寺内町・宿場町など)

外から来た人が、この富田林寺内町のどこを見ているかということです。屋根であつたり、建物であつたり、道であつたり、住んでいる人であつたり、その様な景観です。全体的な景観です。それを大切にしてきたわけです。これが、非常に価値があるということです。

〈3〉課題と展望

①地域振興とまちづくり

・人間を忘れた「建物保存政策」ではなかったか

文化庁は伝統的建造物群保存地区ということで、建物全体を残すこと、建物のことばかりを考えて、建物の中で生活している人間のことを考えていない様に思われます。観光地にして、沢山人が来れば、過疎化がストップするのではないかといいこともありました。しかし、そういったものでもありません。観光地化したところで過疎化が止まるわけではありません。観光客は非常に気まぐれです。京都がよいと思えば京都、奈良がよいと思えば奈良に、金沢がよいと思えば金沢に行きますが、飽きてしまったらそういう所に行かなくなります。観光客はわがままです。その様なことに振り回されていると、日頃の生活がやって行けなくなるということです。そこに住んでいる人間というのが大事ではないかということです。

・「意識をもった後継者」と「新しいコミュニティ」

これも大事なことです。建物は、ただなんとなくおいておけば、ただなんとなく残するというものではありません。意識を持って管理するというのが大事なことです。新しいコミュニティとは何かというと、寺内町のことは寺内町で行う。他の人の言うことを受け入れないというような伝建地区も他にあります。その様な所はどんどん人が減っています。ここの富田林寺内町は、お店を作る人にお店をやってみないか等を積極的に行っておられます。これが新しいコミュニティです。昔ながらの地域の地縁でまとめるのもいいのですが、実はそれほどうまくいかない。外から来た人を受け入れる。これが大事なことです。寺内町をまもり・そだてる会の人にお話を聞きますと、町の中に小さな子供達の笑い声とか、

若いお母さんに住んでほしい。若い子供達に来て欲しいと言っておられました。新しい若い世代にどの様にすればここに来て貰えるかということが新しいコミュニティということです。

・ハード(建物)・ソフト(事業)・ヒューマン(伝統・歴史・物語)

ハードとは建物、ソフトとは事業のことですが、大事なのはヒューマン(人間)です。そこにいる人間が伝統・歴史・物語をもって、そこに暮らしていくことが大事なことです。

②保存修景と動態保存

・外観（ファサード）さえ残せば、価値は減少しないのか

このことは、建物だけ残せば良いのかということです。富田林寺内町は伝建地区です。登録有形文化財というのも外観だけ残せばいいのです。建物の中では普通に生活していればいいのです。しかし、建物の中で何をやってもいいという状態で外観だけ残していけば、ディズニールンドやUSJや京都の映画村と同じです。建物の中で人々が生活をして、それを他の人が体感するのが大事なことです。USJの様に単なる建物だけであれば駄目なわけです。そこに物語があり、ストーリーがあることが大事なことだと思います。京都に行くと社寺の参道に千円ショップやオルゴールの店とか色々な店があって、京都に何の関係もない物を売っている店があります。その様な店が出てくればそういう町は駄目なわけです。富田林寺内町にそのような千円ショップやオルゴール店の様にどこにでもある様な物を、富田林に全く関係の無い物を売ってお店を作っていくとマイナスではないかということです。このことを意識してほしいと思います。外観だけ残すという考えでは価値は減少します。建物だけ残せばいいという考えでは価値はなくなります。このことを十分に考えてほしいと思います。

・地域の文化をインキュベート(育成)する器としての役割

地域の文化をインキュベート(育成)することについて話します。先ほど「アナムさん」が歌われたのがこのことです。この酒蔵で今日のためにこの舞台を造ったのです。この舞台はずっとこのまま置いておきます。この舞台で色々な人が、落語を行ったり、コンサートを行ったりします。今日皆さん来られましたが、お金を支払いましたか。無料でしょ。アナムさんのコンサートは通常お金を支払わなければ聞くことが出来ません。それを無料で聞ける。なぜでしょうか。それは皆さんが富田林に住んでいたからです。住んでいたから聞けたのです。今度、落語会があります。お酒の試飲会もあります。近くにこの様な事の出来る建物がある。これはすごい事です。ふらっと歩いていった所で歌を聞ける、落語を聞ける。このことが大事なことです。この建物は「育成する」ことの器と考えられるわけです。残響効果のあるこの建物で歌手の人がギターやサクソでコンサートが出来る。酒蔵がコンサート会場に生まれ変わる。このことが大事なことです。

・コミュニティ・ミュージアムという考え方

これは、町全体を博物館に見立てるということです。あちらこちらで実施されています。この後で説明される一身田寺内町もそうです。町の角々にうちの家は昔、薬屋さんだったので昔の帳簿類とか薬を調合する道具類を置いてあるということです。この様なことを「コミュニティ・ミュージアム」というのですが、私はもっと、富田林寺内町の中には、皆様のお家でゴミと違うかと思われる様なものが実は宝物かも知れません。昭和30年代、40年代に使っていた物が、今は宝物なのです。売れるのです(売ってはいけません)。それらを持っていて頂いて、富田林市が調査を行い、それらを集めて、例えば〇〇さんの家では昔は河内木綿の木綿商をやっていたなどとして展示するのです。皆さんがなにげないと思っておられるような物が実は非常に価値があるということです。この様なことを理解して頂きたいと思います。私の家は江戸時代、大阪の天満で木綿商をやっていて、「綿屋庄兵衛」という屋号でした。略して「綿庄」です。富田林寺内町の木口さんの所の屋号も「綿屋庄兵衛」で略して「綿庄」と呼ばれてい

たそうで、非常にうれしかったです。木口さんは木綿を出荷する側、私の家はそれを売る側で、非常につながりを感じました。

③観光地化をめざすのか

・生活や暮らし、人々との交流が資源

富田林寺内町は以前から観光地化を目指さないという考えのようです。お客さんがたくさん来て、町の中をうろつかれるのは良くない。ゴミを出し、トイレだけを使われるのは良くないと思っておられるようです。

・集客型観光（マストურიズム）から生活型観光（ライフურიズム）

私が提案したいのは、生活型観光とよんでいます、建物だけでなくその中に住んでおられる皆様の生活が観光資源なのです。一番大事なのは何かというと、外から来られた方(ゲスト)は皆さん(ホスト：お客さんを迎える側)と話がしたい、ここに住んでいる人と交流を持ちたい、ただ町中を歩きたいだけではない、ということです。この様なことをゲストの方は求めておられるのです。

コミュニケーションツールという言葉があります。コミュニケーションツールとは何かというと、私は天神祭りに関わっています。天神祭りの時には提灯が町中に飾られていて、その提灯に漢字で色々な文字が書いてあるのですが、それが読めない。わざと読めないように書いてあるのです。その提灯を町角に飾ります。それを見た観光客が地元の人に、何と書いてあるのか聞きますと、地元の人は書かれている言葉を説明する。このことによってコミュニケーションが成立する。江戸時代から天満の商人はわざと提灯に読めない文字を書くということを行ってきたのです。

・見学から経験するまちなみへ（まつり・年中行事・第二の故郷）

今も富田林寺内町は四季物語を行っておられます。「鍋まつり」、「雛めぐり」、「寺内町燈路」等を行っておられます。外部から来る人はその様なことを経験したいのです。ただ町並みを歩いて見るだけではなしにその様なことを「経験」、「体感」したいのです。今日もお寺でお茶会がありました。お寺などに行ったことのない人が、お寺に行ってお茶を飲む。これもすごいことです。お菓子代とかは地域の自治会からお金がでて、地域の自治会がお金を出して、外から来た人を迎える、この様なことはすばらしいことだと思いました。

④文化循環システムの構築

・「売らない・貸さない・壊さない」でいいのか

・価値を評価し、再生させ、人々に還元する「文化循環システム」

・多様な機能（建物・生活・文化・ひと・共同体・運動・情報など）

いままでに伝建地区である長野県の妻籠宿を調査するのに5年通いました。最初の頃は「他人」扱いでしたが、何回も通っている内に「今日泊まる所があるのか」とか「今日の夕食はどうするのか」と声をかけてもらう様になりました。それが「今日家に泊まれ」、「今日一緒に夕食を食べよう」とか、その地域の仲間に入れてもらえ、色々な問題点を提供させて頂いて、妻籠宿には5年通い、非常に勉強になりました。今度は、この富田林寺内町のために5年間はかけたいと思っています。今日はその始まりです。私は町中をウロウロしていると思いますが声をかけてください。皆さんと一緒にこの寺内町をいい町にしていきたいと思っています。

「売らない・貸さない・壊さない」とは何かというと、長野県の妻籠宿から始まりました。最近、世界遺産になった富岡製糸場があります。今は観光客で一杯です。なかなか入れません。富岡製糸場も「売らない・貸さない・壊さない」で、きたのです。しかしこれからはこの様にはいけないと思います。「売らない」とは、家を売らない。「貸さない」とは家を貸さない。「壊さない」とは家を壊さないということです。外からの人に来て貰うために、修復し、修理し、新しい住まいを造って、建物の外(外観)は国宝けれども、中は現代的な住まいにする。今日は大阪芸術大学の学生もたくさん来ていましたが、彼らは作品を作ってそれを売って生活したいのです。この様なことのためには、この町並みはすばらしい

と思います。これからは、「売らない・貸さない・壊さない」ではやっていけない、この様に考えてほしいと思います。

⑤開かれたまちづくり

- ・「均質的なまちなみ」が全国的に広がっていないか
- ・まちづくりの再構築（高齢化・少子化・空家・まちなみの空洞化）
- ・「閉ざされたまち」から「開かれたまち」へ

開かれた町づくりというの也有ります。文化庁が色々な伝建地区で町並み保存をやっていますが、宿場町、寺内町等数々なものを保存しています。私はあちらこちらを訪問しました。どこも同じなのです。どこも同じように見えます。どこが違ふかと思うほどです。その理由はどこも同じような町並みになっているためではないかと思ひます。例えば、どこかの町の駅前に行くと、銀行があつて、スーパーがあつて、ホテルがあつて、役所の出張所があつて、ロータリーがあつてと、どこも同じようになっています。それと同様に古い町並みがあちらこちらに同じようにあるのではないか、これは映画のセットの様に、同じような物があちらこちらに造られているのではないかと思うのです。

大事なことは建物でなくてそこで生活している人々、そういう人々が大事ではないかと思うのです。よく言われることに、高齢化だとか少子化だとかで、この様な寺内町に空家ばかり出来て誰が住むのかと思われていますが、実は間違えてはいけなひのは、高齢化や少子化は寺内町だけで起こっていることではありません。全国どこでも起こっていることではないでしょうか。

逆に、寺内町で対応出来ることがあると思ひていることがあります。それは何かと言ひますと、地域で子育てをするということです。後で申し上げますが、お寺を中心に地域で子育てをするということです。この様なことをやっていくことで個性のある町並みになつて行きますし、そこには町の人々が自分の子供をみてくれる、近所の人たちが自分の孫の名前を覚えてくれている、少し昔の生活が非常に良いのではないか、新しい住宅、新しい住民を受け入れる母体になるのではと思ひます。

＜4＞歴史遺産を活かしたまちづくり

これからの話は寺内町に限ったことではありません。

①主体性＝住民主体・コンセプト・目標・計画・実践

主体性とは、主人公は住んでいる皆さんです。一軒一軒の家を持っている皆さんが主人公です。富田林市でも市長でもありません。皆さんが主人公です。外からきた観光客のいいなりになるとか、どこから来た人がこの家を借りてこの町と関係のない商売をすることではありません。皆さんが主人公です。

②個性＝文化性・歴史性・真正性・オリジナル・地域性・時代性

個性は、どこにでもあるものはいけません。嘘の文化は駄目です。先ほど申しましたが、オルゴールショップや千円ショップは駄目です。観光地のどこにでもあります。九州の湯布院、京都の清水寺、どこにでもあります。観光客が多く来る所に店を出します。その様な商売の人に来て貰っても、客が来なくなったら店をすぐに閉じてしまうのです。

③自立性＝中央・上位機関・行政などに依存しない・地域の自立性

自立性とは、依存しないということです。皆さんが中心になつて、富田林市や大阪府などの行政に頼らないということです。ここにおられる市役所の方に頼らないことです。

④持続性＝総合的な試み・思いを継承発展・基本と変化・時代のニーズ

いつときの観光地化は町を再生しない。よく覚えておいて下さい。先ほど言ひましたが、長野県の妻籠宿は、観光客が年間40万人から最大で90万人まで増えましたが、100万人まではいきませんで

した。しかし、それでも過疎化は解消されていません。地元の小学校も閉校になりました。これはどう
いうことか、もう一度考えてみる必要性があるように思います。

⑤地域性＝地域コミュニティ・共同体意識・新しい地域性

地域性とは、地域のコミュニティのことです。もう一度、昔の自治会とかを見直す必要があると思
います。提案があります。「寺内町再生」についてです。別の言葉でいうと「新寺内町」「新しい寺内町」
です。これを提案したいと思います。何故か、お寺を中心に町並みがあるのは寺内町だけなのです。宿
場町にはその様なものはありません。今あちらこちらの寺内町を見せて貰っても、行政とお寺と地域住
民が上手に連携を取って、特にお寺の役割をきちっとやっている所はありません。これは寺内町共通の
課題だと思います。お寺を中心にもう一度考えてほしいと思います。お寺は今までは宗教組織でしたが、
富田林のお寺も、一身田も、貝塚、今井町、久宝寺もみな同じで、大きなお寺には大きな庭があります。
大きな広場があります。そこを防災上の逃げ場、空き地、子供達の遊び場や寺子屋、そういうものとし
て、もう一度復活してもらうのです。お寺にもそれなりの意識が必要です。行政も、お寺だから、宗教
組織だから駄目というのではなく、もう一度考え直す必要があると思います。

もう一つ気づいたことがあります。これもどこの寺内町も悩んでいます。地域住民の住民組織の課題
です。例えば富田林の場合、ここの町会があります。寺内町の中と外があります。古い建物の所有者と
そうでない方がおられます。不動産を売買する、紹介する組織もあります。商人の組織もあります。ボ
ランティアガイドさんもおられます。これらの人々をいかに上手にまとめて一つの方向に持って行くか
が、どこの寺内町も問われています。

逆な言い方をすれば、これを上手に出来るところが生き残ると思います。もしこのことが出来ないとい
うことであれば、建物は残っているがゴーストタウンだけが残る。人々がいない、みんな逃げてしま
ったという所になってしまいます。この近くの新興住宅でもその様です。30年前、40年前に家を建
てました。しかし、息子はそこに帰ってきません。何故か、大阪などの大都市に出て行くのが不便だか
らです。

しかし、富田林の寺内町や他の寺内町は駅から近いのです。また、この土地は真っ平らで非常に安定
した場所です。地震があっても大丈夫な場所です。そういう所には人々は戻ってくると私は思っていま
す。もし、許されるならば第3組織が必要ではないかと思っています。第3組織とは住民でもない、お
寺でもない、行政でもない人々、即ち第三者です。ここでいうと、私の様な人々が皆さんを繋いでいっ
てなんとか出来ればいいのではないかと思っています。別にお金儲けを目的にしているのではありません。
ボランティアでも良いのです。文化をプロデュースする。文化を繋ぎ合わせて行く。そういう人々
の役割が必要ではないかと思うのです。ご静聴ありがとうございました。

〔2〕主催者代表の挨拶 富田林寺内町をまもり・そだてる会会長 橋川光司

ご紹介頂きました橋川でございます。ようこそ富田林寺内町において頂きましてありがとうございます。笠井先生の基調講演を聞かれた皆様は、何度もこの寺内町に足を運んで頂いている様でうれしく思っています。今日はまた遠方よりたくさんの方がこのサミットへのご参加を申し込み頂いております。抽選で選ばせて頂いている状況でございます。うれしく思っております。

本日は富田林寺内町をまもり・そだてる会が発足致しまして20周年の記念事業として、このあとに三重県津市の一身田、奈良県橿原市の今井町、大阪府貝塚市、八尾市久宝寺、そして富田林市と5つの寺内町を抱える地域が集まりましてサミットを開催させて頂きます。

歴史的建物を抱える寺内町は、それぞれの自治体におきましても誇りである反面、後世にどのようにこの貴重な財産を伝えていくかという悩みもまた大きいものがあるかと思います。そういう中でそれぞれの悩みを愚痴るだけでなしに、将来に向けての建設的な討論が出来れば幸いと思います。

このあとの進行について、よろしくご協力を頂きますようお願い致しましてご挨拶にかえさせて頂きます。

〔3〕来賓のご挨拶 富田林市副市長 谷口勝彦氏

副市長の谷口でございます。本来ならば多田市長がこちらの住民でございますので、挨拶するところでございますが、所用がございまして、私がご挨拶させて頂きます。私もこの酒蔵に入るのは始めてでございます。お酒の方は40年以上前に、二十歳以上でございましたので、頂いたこともございますが、その味も忘れてしまった様でございます。

会長の方からもお話がありましたが、富田林寺内町をまもり・そだてる会20周年事業として富田林寺内町フェスティバルが開催されますことを、心よりお喜び申し上げます。富田林寺内町をまもり・そだてる会は平成6年、豊かな町づくりの実現を目指し、さまざまな活動を展開され富田林寺内町に大きく貢献されてきました。長年にわたる活動と功績に関しまして心より敬意を表す次第でございます。

また、今年9月18日にはこの寺内町にございます富田林興正寺別院さんが国の重要文化財に指定されました。大阪府内最古の浄土真宗本堂を始めとして、お寺の伽藍配置が良好に保存され重要伝統的建造物群保存地区に欠くことの出来ないお寺として評価されましたことを大変喜ばしく思っています。

さて、二日目となります本日は、昨日のじないまち燈路やジャズ講談に引き続きまして、数々のイベントが行われています。寺内町をまもり保存するには、この様な地域の取り組みがなにより大切なことと思っています。

これから始まります寺内町サミットは、寺内町を母体として発展した町を有する自治体による寺内町まちづくり連絡協議会のメンバーの皆様の協力を得て「未来につなぐ町づくり」をテーマに考えられるものでございます。各寺内町に於いては、この様な保存活動をされている住民の方々にご参加を頂けるとのことで、より具体的な町並みの思いを共有出来るものと思っています。

最後になりましたけれども、今回の20周年を契機として、これまでに積み重ねてこられた活動の実績を糧に、活力ある地域社会づくりに一層の貢献をお願いするとともに、皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げましてご挨拶とさせて頂きます。本日はどうもおめでとうございます。

〔４〕参加各市寺内町のプレゼンテーション

＊以下は、第三部（参加各市寺内町プレゼン資料集：４９頁）とともにご覧ください。

＜１＞ 富田林

「富田林寺内町フェスティバル『寺内町サミット』における富田林寺内町紹介」

プレゼンター：富田林市教委文化財課課長 中辻亘氏（スライドによる説明）

§ 寺内町って、どんな町？

- ・寺内町は、室町時代後期(戦国時代)に寺院を中心として計画的に建設された町で、町全体が寺院の境内であるという考え方により、この名称で呼ばれています。
- ・町は濠や土塁で固められ、住民による自治自衛が行われていました。守護から免租等の特権を獲得し、強い経済力をもつ町もありました。
- ・浄土真宗(一向宗)の拠点として門徒により各地につくられた寺内町は、教団勢力を支える役割を果たしながら、時の権力者と対抗する場合もありました。

§ 寺内町って、どこにあるの？

- ・寺内町は、浄土真宗(一向宗)の影響の強かった近畿・北陸・東海地方で数多く建設され、一般的には２０か所余りが知られています。
- ・これらの中には、本願寺教団の本山がおかれた町、在地の門徒によって信仰の拠点となった町、日蓮宗寺院を中心とした町など、建設のいきさつや性格を異にするさまざまな町があります。
- ・戦乱で破壊された町、江戸時代以降も繁栄した町、城下町などに取り込まれた町など、その歴史についても、まちまちです。

§ 寺内町の所在地

- ・近畿・北陸・東海地方

§ 富田林寺内町の航空写真

- ・富田林寺内町の南部を流れる石川が見える。石川の南に小さな寺内町「大伴」、富田林寺内町の東に小さな寺内町「新堂」、二上山と葛城山の麓の河南町に寺内町「大ヶ塚」が見える。

§ 富田林村絵図(宝暦３年(1753))

- ・碁盤の目状に道路を設けて区画し、南北六筋、東西七町の区画(町割り)を行った。その区画の真中に興正寺別院の浄土真宗のお寺を配置してできた町。東西４００m、南北３５０m、１３．３haの土地を今から４５０年前に銭１００貫文でこの土地を購入して、門徒衆８人によってできた町です。
- ・町の南に石川が流れており、茶色のところは石川の河岸段丘を利用した土塁（どるい、土居）となっている。北側のみに堀を巡らし、３方を自然の土塁を利用しているのが富田林寺内町の特徴。

§ 河内名所図会(享和元年(1801))

- ・当時の観光案内本。「当地葡萄の名産」と記載されている。

§ 富田林寺内町

- ・富田林寺内町は、永禄初年(1560)頃に京都興正寺門跡十六世証秀上人によって創建された宗教自治都市。注：永禄年間(1558～1569)
- ・十七世紀つまり江戸時代以降、幕府の直轄地となつてからは宗教色が次第に薄れ、周辺地域の農産物が集積し、商業活動が盛んな在郷町として発展。
- ・創設当初の六筋七町の町割りとともに、国重要文化財旧杉山家住宅、今年指定された国重要文化財興正寺別院、在郷町の名残を起こす重厚な町家約１８０棟等が数多く残されているということで、平成９年に、大阪府内唯一の重要伝統的建造物群保存地区に選定。

§ 写真：富田林寺内町の町並み(城ノ門筋：日本の道百選) 北からの写真

- ・日本の道百選は、大阪府内では他に御堂筋、堺のフェニックス通りのみ。

§ 写真：大阪府指定建造物 仲村家住宅 天明2年(1782)造り酒屋「佐渡屋」

- ・幕末に吉田松陰が20日間逗留している。
- ・幕末の尊王攘夷派の天誅組河内勢に、この仲村家のご子息が参加された。

§ 写真：葛原家住宅三階蔵 19世紀中ごろ

§ 写真：国指定重要文化財 興正寺別院 (2014年9月18日に指定)

- ・太鼓楼 18世紀後期 文化7年(1810)に現在地へ移築
- ・安土桃山文化を持つ山門 安政4年(1859)京都興正寺北之門を移築。伏見城城門の可能性も大。
- ・寛永15年(1638)に再興された御堂(大阪府内最古の真宗寺院本堂)
- ・江戸幕府御用絵師 狩野寿石筆の襖絵 ・狩野寿石は江戸城松の廊下を描いた絵師
- ・対面所 安政3年(1856)
- ・御成門 18世紀中期(江戸時代末期に現在地へ移築)
- ・鐘楼と築地塀 文化7年(1810)

§ 写真：重要文化財 旧杉山家住宅

- ・寺内町最古、最大の町家建築
- ・明星派歌人 石上露子(杉山 孝)の生家
- ・石上露子(杉山 孝)

§ 町並み保存の歩み

- ・昭和32年：林野全孝先生による町屋の調査
- ・昭和48年：地元住民により「富田林寺内町をまもる会」結成
- ・昭和58年：市が杉山家住宅を1億6千6百万円で買収(点から面への展開の始まり)
- ・昭和62年：「富田林寺内町地区町並み保全要綱」を施行し、市費で保全修理を開始
- ・平成 3年：「富田林市伝統的建造物群保存地区条例」を公布し、「富田林市伝統的建造物群保存審議会」を設置
- ・平成 6年：「富田林寺内町をまもり・そだてる会」結成 ・会員253名で結成
- ・平成 9年：大阪府内唯一の重要伝統的建造物群保存地区に選定
- ・平成10年：国庫補助事業による保存修理事業を開始
- ・平成10年～：街なみ環境整備事業を実施(国交省)

§ 賑わいと落ち着きのある町づくり

- ・平成10年：「富田林寺内町ボランティアガイドの会」発足(まもり・そだてる会会員・家族)
- ・平成20年：「富田林駅南地区まちづくり協議会」が発足し、「じないまち四季物語」を開催
- ・平成22年：「一般社団法人じないまち文化トラスト」発足
- ・平成25年：富田林駅南地区整備事業完了後、「じないまち四季物語実行委員会」発足

§ 空家・空店舗の活性化

- ・平成21年：「有限責任事業組合 富田林町家利活用促進機構」(LLPまちかつ)設立

§ じないまち界隈で37店舗入居(駅南地区 空き家活用マップ)

§ 未来につなぐ寺内町

- ・歴史と文化を未来に伝えるまちづくり(交流館等の写真)

＜2＞ 久宝寺 「住み続けたいまちづくりをめざして」

プレゼンター：八尾市都市政策課 岡本隆志氏、同 木下眞一氏 （スライドによる説明）

§ 久宝寺寺内町の変遷

- ・ 八尾市には、久宝寺、八尾、萱振(かやふり)の3つの寺内町がある。
- ・ 久宝寺寺内町(じないちょう)が最も古く、伝統的家屋や当時の町割りが現在でもよく残っている。
- ・ 昔、大和川は奈良→柏原→八尾→東大阪と流れていた。久宝寺寺内町と八尾寺内町はその大和川を利用して船による物流を行っていた。
- ・ 宝永元年(1704年)大和川が付け替えられて以降、八尾寺内町が中心になった。

§ 久宝寺寺内町全景と久宝寺の地名のはじまり

- ・ 許麻神社(氏神)境内に聖徳太子が建立した久宝寺観音院(明治初年廃寺)にあったことに由来

§ 享保8年(1723年)の新検分間正絵図(町割り絵図)

§ 久宝寺寺内町の誕生

- ・ 1479年(文明11年) 西証寺建立 → 後に顕証寺と称号を改める
- ・ 1541年(天文10年)頃 顕証寺を中心に久宝寺寺内町誕生
 - ・ 中・南河内の門徒集団を束ねる拠点
 - ・ 活発な商業活動の開始
 - ・ 江戸時代以降、旧大和川(現長瀬川)の船運の要衝として栄える

§ 久宝寺の町並み

- ・ 特徴： まっすぐな道の両端に軒のそろった町家
さまざまな建築年代と様式(江戸・明治・大正・昭和初期・戦後)

§ 久宝寺寺内町保全整備事業

- ・ 450年以上の歴史を持つまちの歴史的資産を保全
- ・ 地元のまちづくり組織である「久宝寺寺内町まちづくり推進協議会」との協働
- ・ 平成5年から平成14年までの10年間
- ・ 約18haの区域について、事業費総額約13億円
- ・ 道路修景整備、水路修景整備、公園整備等の事業を実施

§ 保全整備の基本方針

- 1) 歴史的環境を保全 = 歴史的資源、町並みの保全
 - 2) 八尾らしい都市景観をつくる = 歴史的環境を基本とした景観の創造
 - 3) 生活環境を守る = 居住環境の整備・向上
 - 4) 新しい町家をつくる = 建替え時の誘導による新町家の形成
 - 5) まちづくりの主体をつくる = 推進組織づくり
- ・ 同地区は、落ち着いた居住環境を活かすことに重点を置き、当初から重伝建指定の道を探ることなく、文化財部門ではなく、街なみ環境整備事業として都市整備部局で実施(八尾寺内町の特徴)

§ 久宝寺寺内町の町並みMAP

- ・ 入り口を結ぶ5路線を重点的に、修景整備を実施
- ・ 6箇所の入り口(今口、北口、古口、西口、南口、東口)
- ・ 重点5路線：*米屋町通り、*表町通り(旧八尾街道)、*広小路、*中之町通り、*大水路沿道

§ 以下は、平成5年～14年までの事業例

§ 街並み環境整備事業整備方針図(全体説明図)

§ 写真：道路整備例

- ・ 自然色舗装(脱色アスファルト)・・・土色のイメージ

- ・交差点部はインターロッキング・・・強度を持たせるため

§ 写真：電線地中化

- ・大水路沿道の電線地中化(平成7年、8年実施)
- ・重点路線(電柱、NTT柱の供架により電柱の削減)

§ 写真：水路整備例(久宝寺城址付近)

- ・3箇所の整備(大水路、久宝寺城址付近、顕証寺南側)

§ 写真：公園整備例

§ 公共施設整備①

- ・まちなみセンター
 - ・工場跡地を取得し、保全事業の一環として建設
 - ・寺内町の歴史的資産の継承と八尾市のまちづくりについての地域活動の拠点として、平成12年5月に「まちなみセンター」を設置
 - ・愛称の「寺内町ふれあい館」は公募により決定
- ＊平成15年 大阪都市景観建築賞(大阪まちなみ賞)特別賞受賞
美しく、個性と風格のあるまちの景観づくりを進めていくために、周辺景観の向上に資し、かつ、景観上優れた建物やまちなみを表彰されたもの

§ 写真：まちなみセンター南門

§ 写真：まちなみセンター夜景

§ 公共施設整備②

- ・消防屯所、警察立寄り所
- ・元々、警察の駐在所として使用されていた施設
- ・警察の管轄が大阪府となった時に、派出所と消防団の機械器具置き場(消防屯所)として使用
- ・建物が老朽化していることから平成13年、14年に整備

§ 写真：消防屯所、警察立寄り所

§ 写真：案内板設置例(公園内)

市民参加の意識啓発及び他市からの来訪者への対応として設置
寺内町内(寺内町入口、重点道路、公園等)
近鉄久宝寺口駅
JR久宝寺駅

§ 民間家屋修景助成

- ・平成5年9月1日制定の「久宝寺寺内町まちづくり要綱」に基づき、平成6年度から19年度まで運用
- ・平成19年度末実績
助成総額 92,625,000円
助成件数 47件
1件当たりの助成金額約200万円
- ・平成20年度以降は届出時に外壁等を落ち着いた色調で施工して頂くなどの協力を依頼

§ 写真：民間家屋修景例【店舗外観修景平成6年】

§ 写真：民間家屋修景例【称仏寺(平成7年)】【門及び塀の改修】

§ 写真：民間家屋修景例【外壁、車庫の修景(平成7年)】

§ 久宝寺寺内町まちづくり協議会の受賞実績

- 大阪府まちづくり功労者賞受賞(平成14年)

受賞対象

- ・地域活動を通して、魅力あるまちづくりの推進に努めているもの
- ・施設の整備等を通して、魅力あるまちづくりの推進に努めているもの
- ・その他魅力あるまちづくりの推進に功績のあったもの

○国土交通大臣まちづくり功労者賞受賞(平成14年)

受賞対象

- ・魅力あるまちづくりの推進に務め、特に著しい功績のあった民間の団体

○市街地再開発等関係功労表彰(平成16年)(社団法人 全国市街地再開発協会)

受賞対象

- ・市街地住宅整備のための顕著な功績のあった団体等

§ 久宝寺寺内町のこれから

- ・景観形成への取り組み

八尾市や地域に対する愛着や誇り、日常生活の快適性の向上及び八尾文化の継承・発展が確保できるよう自然・歴史的景観の保全・整備や現代的景観の創造等に努めていく。

また、平成16年に制定された景観法の活用を視野に入れつつ、良好な景観形成への取り組みを検討。

- ・久宝寺寺内町の今後

「街なみ環境整備事業」の採択を受け整備を進めてきた久宝寺寺内町ですが、整備期間の平成5年度から平成14年度までの10年間で整備方針の整備は一定完了。

平成20年度に大阪ミュージアムに【久宝寺寺内町】【まちなみセンター】が登録され、それを記念して平成21年度より地域の幼・小・中学校の生徒と地域の皆様が協力し燈路まつりが開催されており、今年度についても9月7日に開催。

今後は、市全体の景観形成とのバランスを図り、住民やまちづくり協議会の方々と意見交換しながら、保全に努めていきたい。

その中で、今年度(平成26年度)「久宝寺寺内町まちづくり推進協議会」が主体となって、「久宝寺寺内町意識調査」を実施しているところであり、今後調査結果を考慮して、寺内町の保全方針を検討していきたい。

〈3〉貝塚 「貝塚御坊願泉寺を中心とした自治都市」

プレゼンター：貝塚市教育部社会教育課課長 前田浩一氏 (スライドによる説明)

【以下の写真の説明は、「かいづか文化財だよりデンプス別冊」より抜粋したもの】

【以下の「・」で始まる説明文は、前田氏の解説によるもの】

§ 写真①：貝塚寺内全景(平成9年)

- ・石山本願寺勢力を支える拠点として町が発展した。
- ・環濠都市ではあるが、堀の役割を、西側は海が、南側、北側は川が担っている。東側は一部に人工の堀が設けられている。
- ・町の大きさは、南北が800m位、東西が500m～600m位。アルファベットのDの形。

§ 写真②：慶安元年(1648)の寺内絵図(願泉寺所蔵)

- ・町割りは現在もほとんど変わっていない。
- ・絵図の下の方は海で、現在は阪神高速湾岸線が走っている。

§ 写真③：願泉寺

中世末期 貝塚寺内町の中心寺院“海塚坊”として成立

天文19(1550)年 本願寺第10代証如による方便法身尊像の下付(御坊寺院化)

天正5(1577)年 織田信長軍による貝塚攻撃

天正11(1583)年 本願寺第11代顕如らが貝塚へ移住(～同13年)

・石山本願寺以外に浄土真宗の本山が置かれた場所が残っている貴重な例

天正13(1585)年 願泉寺ト半家初代のト半斎了珍が留守居役に

慶長12(1607)年 西本願寺第12代准如による「願泉寺」寺号の下付

慶長15(1610)年 徳川家康により「和泉国本願寺ト貝塚ト半寺内」

の黒印状発給(ト半家の寺内領主化)

寛永13(1636)年 ト半家4代了周、江戸の東叡山寛永寺で剃髪得度を受ける。

・寛文3(1663)年 願泉寺本堂を建立

↓

明治4(1871)年 明治政府による貝塚ト半寺内の上知

・平成5(1993)年 国の重要文化財に指定

・平成16年度～22年度の7年間、16億円(内、国から8割の補助あり)かけて修理

§ 写真④：願泉寺シアター

・願泉寺本堂は90畳あり、市民の活動の場となっている。

§ 写真⑤：寺内町の町並み(御坊前筋)

・行政としては、道路の整備と案内板の設置は行ったが、家屋の修復・修景は行っていない。

・家屋の整備・修復・修景は所有者の努力によってなされている。

§ 写真⑥：寺内町の町並み(堀之町筋)

§ 写真⑦：寺内町の町並み(御下筋)

§ 写真⑧：感田神社

伝統的な様式で建築された建造物群がまとまっている。

§ 写真⑨：感田神社(濠)

§ 写真⑩：利齊家住宅

利齊家は江戸時代に薬種問屋を営んでおり、18世紀前半に遡る家

・利齊家等20棟余りを国の登録文化財に登録。伝統的建造物の点を増やそうとしている。

§ 写真⑪：岡本家住宅

岡本家は江戸時代に醤油製造業を営み、寺内町の年寄役も務めた。

§ 写真⑫：廣海家住宅

廣海家は江戸時代に穀物や肥料を取り扱う廻船問屋を営み、一区画を占める敷地を誇る。

§ 写真⑬：寺田家住宅

§ 写真⑭：貝塚寺内町と紀州街道まると博物館①

§ 写真⑮：貝塚寺内町と紀州街道まると博物館②

＜４＞ 今井町 「今井町のまちなみ」

プレゼンター：橿原市今井町並保存整備事務所所長 日裏康夫氏(スライドによる説明)

§ 今井町の成り立ち ～その１～

- ・ 14世紀後半に興福寺荘園として位置づけ
- ・ 室町時代後期(16世紀前半)に一向宗の寺院(後の称念寺)の寺内町として成立
- ・ 天文年間(1532～55)には東西南北の四町からなる環濠集落を形成
- ・ 1570年代に町を武装化し織田信長に反抗、その後信長に赦免され後、武装を解除し、在郷町として発展する。
- ・ 文禄年間(1592～95)には六町として成立
- ・ 当時の姿は、周囲に堀(約3間)及び土居が築かれ、町への入り口には九つの門があった。

§ 今井町の成り立ち ～その２～

- ・ 江戸時代を通じてほとんどが天領であったが町人の自治が認められ、中南和の商業都市として発達
- ・ 町政は、今西、尾崎、上田氏の惣年寄を中心に組織され、司法・警察権の一部を掌握
- ・ 繰綿、木綿を中心に栄え、その後、大名に金銀を貸す両替商もあらわれ、幕府から許可された「今井札」を発行するに至る(大和の金は今井に七部と云われていた)。
- ・ 江戸時代初め、家数千軒、人口4千人、当時の町民は、町掟等により自ら規制し、特に火災については厳しく定められていた。

§ 今井町の街並み保存等の取り組み

- ・ 昭和30年前後 東京大学による「今西家」の調査の後、今井町を調査
- ・ 昭和32年 今西家が重要文化財に指定
- ・ 昭和43・45年 奈良文化財研究所・奈良女子大の合同調査
- ・ 昭和46年 「今井町を保存する会」が発足
- ・ 昭和47年 6軒の民家(旧米谷家、高木家、音村家、中橋家、豊田家、上田家)が重要文化財に指定される(河合家は昭和51年に指定)。
- ・ 昭和49年 「町並み保存連盟(有松・妻籠・今井)」が結成
- ・ 昭和50年 商工業者中心の今井町の住民組織「新和会」が結成
- ・ 昭和53年 「今井町保存問題に関する総合調査対策協議会(住民協議会)」が発足
- ・ 昭和52～56年 文化庁・建設省の合同調査
- ・ 昭和58～63年 今井町住民の方々との協議調整
- ・ 昭和58年 市独自の補助制度「今井町町並み保存対策補助金制度」を創設
- ・ 昭和63年 住民協議会が「今井町町並み保存会」として再結成
- ・ 平成元年 「橿原市伝統的建造物群保存地区保存条例」の制定
伝統的建造物群保存地区保存審議会発足
歴史的地区環境整備街路事業(歴みち事業)に着手
- ・ 平成2～3年 伝建地区指定反対の方々との協議調整
- ・ 平成5年3月 今井町伝統的建造物群保存地区の都市計画決定
- ・ 平成5年12月 今井町重要伝統的建造物群保存地区に選定
- ・ 平成6年 今井町街なみ環境整備事業に着手(平成30年度まで)

§ 写真：「今井町」地区の概要(本町筋、中町筋)

平成5年：重要伝統的建造物群保存地区に選定

規模：東西約600m・南北約310m 面積約17.4ha

概要：指定地区には、重要文化財が9件、県指定文化財が3件、市指定文化財が6件あり、
建物総数は約760棟、内、伝統的建造物が500戸余り

伝統的建造物：重厚な本瓦葺きの屋根を持つ、「ひらや」または「つし2階」の町屋が、ほぼ軒を連ねており、その2階の壁面には、意匠を凝らした「むしこ窓」や「家紋」などの装飾が施されている。

§ 写真：重要伝統的建造物群保存地区における航空写真

§ 写真：今井の基本的な型式の建物(戸建)①

§ 写真：今井の基本的な型式の建物(戸建)②

§ 写真：伝統的様式の町屋の修理事業(文化庁の補助による事業)【修理】

§ 写真：伝統的様式の町屋の修理事業(文化庁の補助による事業)【修景】

§ 写真：伝統的様式の町屋の修理事業(文化庁の補助による事業)【整備】

§ 町並み保存に向けた現在の取り組み

・ 行政の取り組み

文化財の保存及び住環境の整備と景観向上に向けたハード面の整備

→ 保存・修理事業、街並み環境整備事業の活用

・ 民間の取り組み

各種まちづくり団体によるソフト面の整備

→ 今井町町並み保存会、今井町防災会、NPO今井まちなみ再生ネットワーク、
今井町区域街並み環境整備協議会等

§ まちづくり団体の活動①

今井町町並み保存会

「今井町の町並み保存を考え、よりよい住民の生活環境づくりを行う」ことを目的に活動

※活動内容

- ・ 今井町並み散歩
- ・ 今井灯火会
- ・ ミニ機関誌「いまいは今」の発刊
- ・ 大和今井を見る会食べる会
- ・ まちづくり亭今井(落語寄席)
- ・ 今井町の取材・撮影の協力、メディア等への今井町の情報発信

§ まちづくり団体の活動②

今井町防災会

「木造家屋群である伝建地区今井町と住民の生命・財産を災害から守る」ことを目的に活動

※活動内容

- ・ 防災知識の普及、防災訓練の実施
- ・ 市施設の防災小屋の管理と防災器具、設備の整備点検
- ・ 市設置の消火器の点検

今井町区域街並み環境整備協議会

「今井町における各種整備事業を通じ、今井の歴史的町並みの質の向上を図る」ことを目的に活動

※活動内容

- ・ 技能向上のための研修会、勉強会、模型作成等

§ まちづくり団体の活動③

NPO今井まちなみ再生ネットワーク

「賑わいのあるまちづくり」を推進する事業を行い、保存地区の活性化に寄与することを目的に活動

※活動内容

- ・HPによる情報提供
- ・空き家バンク
- ・サブリース事業
- ・町家体験型宿泊施設 今井庵「楽」の整備・運用
- ・情報誌(年4回)及び「町家暮らしのすすめ」の発刊
- ・まちづくり人講習会
- ・空家調査等の各種調査研究

〈5〉 一身田 「津うコレ！ 一身田寺内町をまちあるき」

プレゼンター：津市生涯学習課主幹 米山浩之氏（ビデオ上映）

ビデオタイトル：「津うコレ！ 一身田寺内町をまちあるき」

【以下は、このビデオのナレーションとビデオ内インタビュー】

- ・ここは津市の北部、一身田の高田本山専修寺（せんじゅじ）を中心として大きなお寺や古い街並みが残る環濠に囲まれた町です。
- ・専修寺山門をくぐると、正面に御影堂が見えます。国の重要文化財に指定されている御影堂は、専修寺最大の建物で、現存する木造建築物としては、全国で5番目の大きさです。このほか境内には、御影堂の西側に建つ如来堂や、この二つの建物を結ぶ通天橋、山門、唐門など、全部で13棟の建物が国の重要文化財に指定されています。
- ・本山前は寺町通りと呼ばれ、広い通りの両側には伝統的な景観が残っていて、石畳、板塀、国の登録有形文化財の長屋門などもあり、寺内町の雰囲気は今に伝えています。
- ・専修寺山門を出て、本山を取り囲む土塀を見ながら、寺町通りを西に向かってみましょう。唐門が見えてきました。唐門の奥には如来堂も見えます。そして見えてきた1軒のお店。「まちかど資料館」の看板が見えました。お話を伺ってみましょう。
- ・〈生命を育むやさしさの博物館〉館長 武野喜夫さん：「こんにちは。いらっしゃいませ。ここは寺内町で薬の博物館として、いろいろ展示しておりますので、どうぞご覧ください。こちらは私の先祖から使っておりました看板薬を調剤する道具、書類を展示しております。」

＊〈まちかど博物館〉：地域の人達の自慢のコレクションや伝統の技など地域の大切な財産を館長の仕事場の一角などで公開する新しい形の博物館

「これは明治時代の調剤録ですが、明治23年に調剤をしていた記録です。お医者さんの名前などが記録として残っております。まちかど博物館は、ここ以外にも寺内町に多くありますので、ご覧になってください。」

- ・館長に他のまちかど博物館を教えてください、寺内町を東へと進みます。
- ・〈鉄道おもちゃ博物館〉館長 中川隆功さん：「こちらでは手作りの鉄道おもちゃを展示しております。こちらが地元の津駅の様子を再現したものなのですが、JR紀勢本線の車両や近鉄の特急、こちら一

身田駅とか高田本山とかこういったものも並べてあります。前を通っていかれる地元の小学生や幼稚園のお子さんに、楽しんでいつも見てもらっています。昔の商店街のおもちゃ屋のショーウィンドウには、たくさんおもちゃが並んでいて、自分も子どもの頃は飽きずに眺めていた覚えがありますが、そういった子どもの頃のときめく心を思い出して頂ければと思って、博物館をしています。」

- ・二軒目のまちかど博物館を出て東に向います。古い民家のたたずまいが往年の面影を残しています。途中、細い路地を見つけました。地域の方が利用する道でしょうか。路地の隙間から見える通りには行き交う人々の姿が見えました。
- ・寺内町を歩くと、寺内町がお濠によって囲まれていることに気がきます。これは環濠といって、東西約500m、南北約450mの寺内町の範囲を明確に示しています。寺内町を区画することに加えて、町の防御を目的とする機能を果たしてきました。
- ・道の分岐点に、道標が残っています。天保8年(1837年)に建てられたこの道標には、「右江戸みち」「左御堂並に京道」と刻まれていて、交通の要所だったことがうかがえます。
- ・北に向かって歩くと、寺町通りに戻ってきました。見えてきたのは、老舗の御菓子屋さんですが、こちらも、まちかど博物館をされているそうです。
- ・〈時代を写したこだわり博物館〉館長 下井弘吉さん：「こちらでは寺内町のロケ風景の写真を飾っております。これが本山前で撮った「番町皿屋敷(昭和12年)」のロケ風景です。こちらは鐘楼前で撮った「江戸最後の日(昭和16年)」のロケ風景で、坂東妻三郎が勝海舟役、尾上菊太郎が、江戸幕府最後の将軍 徳川慶喜役を演じています。(観光客の皆さんは)ガイドさんに「ここで撮っていた」とか「あそこ撮っていた」と教えてもらって、最後にこの博物館に来て、ここは本山だ、ここは環濠だ、「やはりここでたくさん撮影されたんだ」と言って、「この古い写真を良く残していた」と褒めていかれる方もあります。」
- ・まちかど博物館を出てすぐ隣、一身田寺内町の館に着きました。
- ・〈一身田寺内町の館〉副館長 鈴木良次さん：「こちらは一身田寺内町の館です。寺内町の歴史や文化を紹介するガイダンス施設です。どうぞ館内にお入りください。こちらはエントランスホールです。休憩室、絵画や写真の展示、寺内町を紹介するDVDの上映などを行っています。こちらは展示室です。寺内町の歴史をパネルで詳しく説明展示しています。またこちらではジオラマといいまして復元模型を用いて詳しく昔の文化財等を紹介しています。一身田寺内町にお越しの際は、まず最初に一身田寺内町の館にお越しください。」
- ・一身田寺内町では、ボランティアガイドの一身田寺内町ほっとガイド会が、一緒に寺内町を散策しながら歴史、文化財等の見所を案内してくれるそうです。一身田寺内町には多くの寺社や文化財、環濠や伝統的建造物があり、通りごとの変化に富んだ町並みには、この町の持ついろいろな顔を垣間見ることができました。ぜひ一度、ほっとするまち一身田寺内町を訪れてみませんか。

【以下は、津市教育委員会作成パンフレット「一身田寺内町」より抜粋】

①一身田寺内町

- ・高田本山専修寺を中心として大きなお寺や古い街並みが残る環濠に囲まれた町
- ・この寺内町には多くの寺社建造物や文化財、環濠や伝統的建造物がある。

②一身田寺内町の歴史

- ・人々がこの地に集落を形成したのは嘉吉3年(1443)【一御田神社の棟札】
- ・寛正5年(1464)真宗高田派中興の祖真慧上人が無量寿院(専修寺の前身)を建立
- ・天正20年(1592)の一御田神社の棟札に「寺内」という呼び方がみられる。

- ・万治元年(1658)津藩のお姫様が専修寺の門主に興入れ時に寺院の西側の土地を寄進され現在の形になる。
- ・専修寺は天正8年(1580)に御堂を焼失したが、寛文6年(1666)濠を造り足し、全国でも屈指の大きさを誇る現在の御堂が建立された。

③高田本山専修寺

- ・御影堂：重要文化財、現在の御影堂は寛文6年(1666)に再建、現存する木造建築物では全国で五番目の大きさ。
- ・如来堂：重要文化財、唐破風造で「通天」という廊下で結ばれている。
- ・山門：宝永元年(1704)頃に建てられた入母屋造・本瓦葺の巨大な二階建ての門
- ・唐門：雄大な四脚門で、檜皮葺の屋根の正面・背面に大きな唐破風がある。
- ・太鼓門：左右に屋根が付く四重の櫓門
- ・釘貫門：山門の前にある矢来
- ・御廟：改組である親鸞上人の御廟、正面に唐門、周りに透塀
- ・鐘楼・銅鐘：市指定文化財、入母屋造の屋根に、四本の隅柱は柱の先を内側に斜めに倒した四方転びという形式
- ・銅燈籠：唐獅子が浮き彫りにされた基礎や火焰の付いた宝珠が笠の上に載せられている。

④観光スポットとしての歴史

- ・専修寺は「伊勢道中」への途次に参詣に訪れる人々が多かった。
- ・専修寺は「信仰の場」であり「観光のスポット」でもあった。

⑤一身田寺内町の館

- ・寺内町の歴史や文化を紹介することと、地域住民の交流を目的に建築された。

⑥ボランティアガイド〈ほっとガイド〉

- ・「一身田寺内町ほっとガイド会」は寺内町を案内するボランティアガイドで、寺内町を散策しながら、その歴史・文化財などの見所を案内する。

⑦寺内町に入る三つの門

環濠に囲まれた一身田寺内町には三カ所の入口があり、濠には橋が架けられ昔は門があった。

- ・赤門：江戸方面への出入口、朱塗りの門があった。
- ・黒門：寺内町の惣門で、門の横には番所があった。
- ・桜門：京都方面への出入口、濠の堤の桜並木が名前の由来

⑧寺町通り

- ・本山前的大通り
- ・広い通りの両側は伝統的な景観が残っている。
- ・専修寺の末寺がこの通りに四つ建っている。

⑨環濠

- ・東西約500m、南北約450mの寺内町の範囲を明確に示している。
- ・寺内町を区画することに加え、町の防御を目的とする機能を果たした。
- ・寺内町の周囲を巡る環濠としては、日本で唯一ほぼ完全な形で残っている。

〔5〕 討論会「未来につなぐ寺内町」

進 行：大阪国際大学教授 笠井敏光氏

パネラー：【富田林】

富田林市生涯学習部文化財課課長 中辻 亘氏

富田林寺内町をまもり・そだてる会会長 橋川 光司氏

パネラー：【久宝寺】

久宝寺寺内町まちづくり推進協議会理事 近藤 廣之進氏

久宝寺寺内町まちづくり推進協議会理事 谷浦 政男氏

パネラー：【貝塚】

貝塚市教育部社会教育課課長 前田 浩一氏

パネラー：【今井町】

橿原市生涯学習部今井町並保存整備事務所所長 日裏 康夫氏

パネラー：【一身田】

津市生涯学習課文化財担当主幹 米山 浩之氏

以下発言者の表示：笠井氏(笠)、富田林(富)、久宝寺(久)、貝塚(貝)、今井町(今)、一身田(一)

〈1〉 各寺内町の特徴

(笠)各寺内町の特徴についてお話しください。

(富)よその地域の多くは環濠で囲われている様ですが、富田林は比較的高い土地にありますので、土塁が西、南、東にあって、狭い1mほどの掘り割りが北側にありましたが、早くから暗渠になっています。従って、土塁で囲まれた寺内町と言えます。

(貝)願泉寺という中心にあるお寺の存在感が大きな位置を占めています。存在感とは、お寺の建物としての規模が大きく、重要文化財にもなっていることもあります。「ボッカンさん」＝「お寺の住職」が領土の長として存在しているということです。隣町に岸和田という大きな城下町があり、周りは全て岸和田藩でしたが、貝塚は、お寺のご住職の「ボッカンさん」が治めた寺内町「D」型の文字の区域だけの小さい「藩」の様な存在でした。ご住職はお殿様でしたので、今でもご住職のことを「オッサン」とか「ボンサン」ではなく「御前さん」と呼んでいるような町です。

(久)浄土真宗久宝寺御坊顕証寺を中心とした町です。二重の土塁と環濠に囲まれた町で、中の町割りが完全に残っていて、今も町割りが変わっていません。後世に残していきたいと思う町割りが残っているのが特徴です。

(一)真宗高田本山専修寺が大きな存在で、町の面積の1／2から1／3の大きさを占めています。それと寺内町を巡る環濠としては、日本で唯一ほぼ完全な形で残っている町です。

(今)よく書物や雑誌で江戸時代の町並みが残っていると紹介されていますが、室町時代に町が出来上がっています。現在10年かけて称念寺の改修工事を行っていますが、称念寺を中心とした中世の町並みが残っている環濠集落の町であり、600m×310mの間に美しい町割りが残っている町です。

〈2〉 現在の課題とその解決策

(笠)各寺内町の課題と解決策についてお話しください。

(富)課題はどこも同じだと思いますが、少子・高齢化で住民の数が減ってきていること、そして空家もぼつぼつとできています。昔は、酒屋を中心に栄えた商業の町でしたが、商店の数も減ってきている。我々が生活する中での日常品などの買い回り品の店もなくなってきていますが、LLPの皆さんのお力で37店舗の新しいお店も増やして頂きました。しかし今、通いながらお店をされている方も非常に多いものですので、最終的には、なんとかこの寺内町にお住み頂きたいということを願っております。

(貝)基本的に同じ課題です。古い歴史的な地域は人口が減る一方です。少子・高齢化が進んでいます。笠井先生のお話では全国的な傾向だということですが、貝塚市の状況はより一層その程度がきついに思っています。中心市街地の商店街がシャッター通りとなり、どうしても人口が新興住宅地の方に流れています。どうしたものかというのが大きな課題です。

(久)久宝寺も高齢化、若者不足は同じです。何とか企業と繋がりをもっていくことができるのではないかと考えています。企業などから寺内町の清掃活動を行いたいなどの申し入れがあります。また、子供のときから芋掘りや生育などの農業体験等を小さい頃から覚えていって欲しいということで実施しています。また、現在、古い町家を取り壊されることが続いています。何とかそれを、住民の意識調査やアンケートを取るなどを行い、どの様にするかを決めていきたいと考えています。

(一)一身田も同じで、空家も目につくようになってきました。特に高田本山専修寺の前の景観に寄与するような建物が空家のままに放置され、取り壊され駐車場になったという例もあります。町中もところどころ取り壊され虫食い状態になっているという残念な状況です。ただ、対策としてこれといったものは特にはありませんが、景観条例の中では町並みとして入っていますので、少しでも住民の皆様の意識を高める努力が必要と考えています。

(今)今井町には、伝統的な建物が500棟程ありますが、その内の300棟程の保存修理は終わっています。寺内町には、住民の方の生活、営みがある訳ですが、その中で残る大きい問題を占めるのが長屋と呼ばれる長屋建ての建物です。大きな商家に務めていた職人さんや奉公されていた方がお住みになっていた長屋が七割程度あります。これらの建物はほぼ活用されることなく、かなり傾いている建物もありますし、残っています。こういった長屋空家をどの様に活用していくのか、単なる店舗だけでなしに、そこに夜住んでもらうということを私達はコンセプトとして長屋対策をしていかなければならないと考えています。その中で、来年計画していることとして、二軒長屋を使って学童保育所をつくります。時間帯は午後3時から6時で、今井町も高齢化が進んでいます、この時間帯に子供が多く町中に入ってきてかなり賑やかになるのではと考えています。そういった形で色々な地域の特性を活かした中で、長屋というものを再生していきたいと考えています。

(笠)お聞きしました課題としては、空家対策でございまして、建物だけを残してもしかたがない。中に入る人に生活をして頂く。そのためにどうやっていくかということが5つの寺内町の共通の課題であるわけですから、それを解決することはできるだろうと思っていますので、これから考えていきたいと思っています。

＜3＞ 今後の町並みの整備

(笠)それでは今後のことにいきたいと思っています。今後の町並み整備についてお話をください。特にハード面といいますか、建物とか道とか景観とかについてお聞きしたいと思っています。

(富)ハード面の町並み環境の整備は一応終了しました。あとは伝統的建物の修理はこれからもずっと続けていかなければならないほど順番待ちの状態です。そんな中で重伝建に選定された時点におきましては、富田林駅から南へ向けての道路が都市計画道路として計画されました。そのために西と東に分断されて11.2haだけが重伝建の選定を受けましたが、残りの2.1haを都市計画道路が廃止になりましたので、それを統合した重伝建の寺内町にしていくように計画を立てています。

(貝)町並み整備のあり方ですが、地域の状況が少子・高齢化が進んで人口も減少し、スカスカになっています。こういう所の地域の整備というのは外面だけ町並み整備を進めるというのは行政的にも許されないといいますか、今の財政状況からすると投資効果を見極めないと予算化が出来ないというのが実状です。特に私どもの様な南大阪に位置しているものの状況はかなり厳しいものがあります。関西国際空港の活性化等といわれていますが、地価は下落する一方で、税収入は落ち込んでいます。町を活性化出来る様な方策とセットでないと、町並みを整備していくのは難しいのではないかと考えています。

(久)久宝寺もお店があるようでないのが実状です。しかしながら、今後の町並み整備に関しましては、平成5年から14年の間の保全事業、19年までの修景助成による整備は終わっています。しかし、地域の皆様から、道路の美観・舗装を復活して欲しいと言われていいますので、そのような声もしっかり受け止めてやっていきたいと思っています。

(一)平成20年から24年にかけて町づくり整備を行っています。内容につきましては、道路のカラー舗装、下水道の整備などを行っています。今後の計画は今のところございません。

(今)ハード面の道路に関しましては、電線の地中化です。景観を良くするために電線・電柱を地中に埋めるということをしています。そして建物の保存ですけれども、先生のお話にありました様にテーマパークになってはいけないということもあって、出来るだけ「本物」を残していきたいというように考えています。外観になりますが、本来使うべき所に、本来の機能をもった材料を使っていきたいと思っています。例えば、大阪であれば「河内材」、我々の様な奈良県であれば「吉野材」など、そういったものを出来るだけ使用して町並みに合った昔から使われてきた材料で整備をしていきたいと考えています。

(笠)今後の町並みをハード面で言いますと、おおまかな所では道であるとか、景観とかはほぼ完了したところであるかなと思います。後は個別の家の修復になっていくわけですね。そう考えると寺内町も今までのようなハードだけではなくて、ハードからソフトへの時代なのかなと思います。それには、特に中に住む人のあり方も問うていかないといけないと思います。

＜4＞何を次世代に引き継ぎたいか

(笠)何を次世代に引き継いでいきたいかについてお話しください。これは主にソフト面ですね。

(富)引き継ぎたいというよりも、次世代に継いで貰いたいという気持ちが強いのですが、この富田林寺内町は生活感の感じられる町で、静かな住環境が気に入って貰っています。市立の保育園がありますが、外部から通ってくる子供さんの方が多い。地元の子供達が地元の保育園や小学校に通うという様な生活が出来て、今までと同様に人の声が聞こえる町並みでずっとあってほしいと願っています。

(貝)次世代にというのは難しい問題でして、人によって価値観が違う。価値観が多様になっている中で一言では言えないと思うのです。私が思うには長い間に寺内町の歴史が培ってきたものを、「貝塚であれば貝塚らしさ」、「富田林であれば富田林らしさ」、「今井町であれば今井町らしさ」、こういったものが何なのか、これをどう伝えていけばよいかを考えること自体が、大事なかなと思っています。

(久)次世代に何をということですが、意識の高さや内容によって守るとか残すということが出来ると思っています。残していきたいと思うのは、久宝寺では小学校の町並み案内なども毎年やっていますので、その中から、子供達からも意識を変えられるような、また幼稚園や保育園とかと一緒にあって、「芋掘り」などの活動をしながら、関わりながら、残せるものは残したいと思っています。

(一)町の雰囲気を残したいし、残せばいいかなと思っています。町のスローガンというかキャッチフレーズが「ほっとする一身田」と言いまして、町に来られた方に、何かほっとする雰囲気を味わって頂きたいと思っていますので、その様なことを残していきたいと考えています。

(今)今井町の東側になりますが、県立医大病院という大きな病院があります。その病院とタッグを組んで医学を基礎とした町づくりを現在進めています。今井の建物(古民家、町家)は土間があって建物の部屋に入るには一段段差を上がらないといけない。大変不便な様に思いますが、今の建物はバリアフリーで段差がない建物となっています。今の子供達とか次世代に繋いでいくのは町家の中に住むということです。そのことによって健康になることが実証されています。段差も必要などころには必要ということもございいます。町家の特性を出来るだけ残していって、町家が行政の建物になるかもしれませんが、出来るだけそういうものを次世代に伝えていきたいと考えています。

(笠)次世代に何を伝えたいか。「意識」とか「雰囲気」とか「技術」とか、色々なお話が出ました。

＜5＞ 人のつながりについて

(笠)人のつながりということで、これは主に人間の話です。たとえば、子育て、組織、後継者などについてお聞きしたいと思います。

(富)まもり・そだてる会の行事だけではないのですが、色々な団体が適当な時間的な間隔でイベントを行って頂いているお蔭で、町も賑やかになってきています。地元の方のご理解を得てこそ出来る賑やかさということで、そういう面で昔のことを思えば、ずいぶんと静かすぎる状態からある程度賑わいを取り戻して来て、人と人のつながりも復活して来ているのではないかと喜んでいます。

(貝)五つの寺内町も皆一緒だと思うのですが、寺内町の人々のつながり方というのは、大阪市内とか東京という大都市でもなく、日本に数多くある農村とか村でもない。適当な町で非常に良好なコミュニティが残っている町です。私も貝塚寺内町に住んでいますが、私は他の土地の出身で、寺内町に移り住んだのですが、非常に気持ちの良い近隣関係があると感じます。ただ、良好な関係も年寄りが増えて子供が減ってくる中で、独居老人のお宅も増えています。これからこの良い雰囲気はどう維持していけばいいのかを人のつながりの中で思うところです。

(久)久宝寺も高齢化の傾向があり、若い人に住みついて貰いたいと希望しているのですが、いかんせん高齢化、一人暮らしの町になってきています。久宝寺寺内町にある「まちなみセンター」の指定管理を推進協議会を母体とするNPOでさせて頂いております。今年の四月から「まちなみセンター」を活かして、これから人と人をつながりをもっと盛大にして、色々なことを通して交流・つながりを深めていきたいと思っています。

(一)町づくりとして、地元に一身田地区町づくり協議会というのがあって、イベントなどをやってもらっておりますし、環濠の清掃などもやっております。実は今日、一身田の方で寺内町まつりというのがあります。色々なイベントがあるのですが、そこに主体的に関わってもらったりしています。人と人のつながりについては、ある程度定着してきているのかなという感じはあります。

(今)町の中には多世代の人が住む様な町を造るのが理想であることから、学童保育所を使って今井町で子供を育てるということも行っていきたいと考えています。周辺には、医大、奈良芸術短期大学があります。また奈良市ですが奈良女子大もあって、学生さんにも入って頂いて、町の中をつなげていければ良いと考えています。

＜6＞ まちの将来像について

(笠)町の将来像についてお聞きしたいと思います。観光地化をして、たくさん人が来てゴミは落とす、トイレはする。この様なのが良いのか、このまま静かにいつのまにか人が来なくなって、いずれそこには人がいなくなって、家だけが残るさみしい町が良いのか、町の将来像についてお話しください。

(富)難しい話ですけども、富田林寺内町は癒しを感じると誉めて頂くのですが、それが静かすぎて寂しいということなのか、どうとらえるかです。富田林に来られたある方ですが、富田林の駅を降りて寺内町の方に向かって歩いてくると、だんだん癒しを感じて非常にすばらしいと誉めて頂きました。私は前向きにとらえて、その静かな癒しを感じるということが非常に大きな観光資源だと、そういう意味ではある程度観光地化されていると言われても仕方がないかなと思いますが、とにかく、静かな住環境で外から来られた方に、癒しを感じて頂ける様な町を目指して行けたらなと思っています。

(貝)寺内町というのは元々一向宗の自治都市ということで、地域で何もかもが完結していたと思うのです。そこには住宅もあれば商店もあり、当然お寺もあるということで、だから宿場町とはちがうので、観光客のような外来者が来るということが不可欠な町ということでもないのです。しかし、人が来ない町は死んだ町だと思うので、適度な来訪者もありながら、基本は良好な住環境があって、そこに来れば癒しの心が芽生えるというような地域が、今後の方向性かなと考えております。

(久)観光地化に関しては、その様な方向でなくて、現状を維持していく気持ちでいるのですが、観光

地化という訪問者がお金を落としてくれるというように捉えるならば、これも一つの考えとして必要かと感じております。寺内町も最近訪れる方が多くなってきているように思いますが、サミットに参加させて頂いて、他の寺内町はすごいなと感じています。色々先進して頑張ってやっておられる皆様のところとしっかり交流させて頂いて、これから久宝寺寺内町も皆様に追いつくことは難しいかもしれませんが、しっかりと教えて頂いてやらせて頂きたいなと思っております。

(一)中心になるお寺、高田本山専修寺は、大きなお寺さんですので人が沢山きてほしいと思っているところです。また、寺内町も元々商家の多い町ですので人が来てほしいと思っているでしょう。しかし、そこには民家といいますか生活の場でもあるので、適度な観光地化といいますか、適度に人が訪れるのが好ましいのではないかと思います。

(今)町の将来像ですが、簡単にいえば、人の営みがあって適度な観光地であれば良いのではないかと感じています。今井町の場合、訪れて頂いている観光客は年間4万人程度です。川越の場合、年間130万人の観光客が訪れる様です。そこまでは望んではいませんが、観光でお金を落として頂く、元々商業の町でしたのでそうしたことも必要かなと、そのような中で住民の方が楽しんで暮らせる町をつくってければ良いと考えています。

(笠)共通していることとしては、良好な生活空間があって、即ち自分たちが住んで気持ち良く、適度な観光地化が良いということですが、適度な観光地化というのが難しい。年間の観光客が100万人規模か、数万人規模か、現在、富田林は数万人規模かと思いますが、どの程度が良いと考えるのかそのあたりが難しいと思います。一身田さんは大きな高田本山があり、大きな道も整備されていますから、観光地化するのは一番簡単だと思うのですが。

(一)道もカラー舗装され、町並みも綺麗になりましたので、また地元の声もあるので、観光地化についても考えていきたいとは思っています。

(笠)一身田さんは何が良いかというと、親鸞上人の直筆のものが全国で一番沢山あります。高田本山専修寺に。当代の本願寺よりも親鸞上人の直筆のものが多く、ほとんど見れません。これだけをオープンにするだけでも、全国から人がいっぱい来ると思うのですが。非常に美味しい。もったいない。

＜7＞ 未来につなぐ寺内町とは

(笠)最後に、ひとことお願いします。言い残したこととか、いい足りないことをお話ください。

(富)富田林寺内町の原点を見てもみますと450年前に出来た新しい町、ニュータウンなわけですね。近から人が住み着いて450年の歴史があることになります。振り返ってみますと、平成の時代もまた新しい住民の方がここに住んで頂けたらと、行政もバックアップしながら仕組み作りとかを考える必要があります。それから、笠井先生も今井町の方も言われていました様に、大学とかの連携も必要かと思っています。富田林も大阪芸術大学、大阪大谷大学、阪南大学と連携して、町の活性化に協力して頂いています。これからも引き続き一緒になってやっていきたいと思っています。

(貝)何ヶ月前に、日本創生会議という所が日本の今後の人口動向を発表しまして、若いお母さん、20代、30代の女性がほとんどいなくなる自治体があって、自治体として存立することが危ぶまれる様になると発表され、役所の中でも話題になりました。幸い貝塚市はそこまで人口減は無い様です。日本の社会で子供の数が少なくなっています。繰り返し申し上げておりますが、貝塚寺内町にある地域の子供会のメンバーが一桁になってきています。小学生が一桁になっていて、子育て支援を進め、若い人に住んで貰わないといけなと思っています。景観整備とか言っている場合ではない。人に住んで貰わないとお話にならないと思っています。どうすればよいか、良案を申し上げられないのが残念です。

(久)NPO法人ということで、「まちなみセンター」で活動させて頂いていて、これからの活動を提案書という形でまとめたものを一冊の本として取り纏めました。この中に書かれている内容を住民

の皆様としっかりやっていこうと思っています。伝統的家屋の開放、また寺内町の価値ある建物のPRとか。こんな近くに寺内町があったのかと訪ねてこられる方が多数おられます。こちらから発信をして寺内町に来て頂けるように頑張っていきたいと思っています。

(一)三重県の津市から来ました。ここまで電車で二時間半程度だったと思います。津市をあまりご存じ無い方がおられるかも知れませんが、三重県には去年の式年遷宮の伊勢神宮ですとか、鈴鹿サーキットなどがあります。ぜひ三重県の一身田の寺内町に、足を運んで頂きたいと思っています。

(今)私の話で申し訳ありませんが、家に小学校4年生の子供がいて、奈良の暮らしという教科書があります。その中に橿原市、桜井市、高取町が1頁に載っているのですが、今井町は4頁で紹介されています。子供にここを授業で習った時は、お父さんはこの町で仕事をしていると、自信を持って言っています。いつ習ったかと時々聞きますが、まだ習っていない様です。私は行政の仕事を40年ほど勤めることになりますが、その内の3年から5年この伝統的建造物の保存ということに携わることになります。おもいつき、町並み整備ということを行っていきたい。今まで戦国時代から何回も潰されかけては助かってきた町ですので、人口の減少時代になってきていますが、打ち勝っていける様に取り組みたいと考えています。先生の話の中で住民、お寺、行政、そして先生のような町づくりを行っておられる方が重要だということです。私もそれを考えまして、我々のような行政職員が行政の立場で町づくりをするのではなく、私は事務所が今井町の中であって、その中で整備等を行っていて住民と行政の真ん中に位置している状態で、住民にとけ込んだ形で整備などを進めていきたいと考えています。

(笠)「未来につなぐ寺内町」ということで、5つの寺内町の第一線で仕事をしておられる役所の方と住民の方に来て頂いて議論をさせて頂きました。色々な問題が出てきたなと思います。空家化だとか少子・高齢化とか種々ありましたが、きっと展望があります。「寺内町に未来はあります！」と私は言いたいと思っています。それでは5つの寺内町の関係者の方に、拍手を送って頂きたいと思っています。ありがとうございました。

〔6〕閉会の挨拶 富田林寺内町をまもり・そだてる会事務局次長 中井隆洋

本日は、午後の1時からほぼ4時間に渡る寺内町サミットを最後まで熱心に聴講して頂きまして、また議論して頂きまして誠にありがとうございました。お陰様で、今回全国に先駆けて開催できました「寺内町サミット」、初めてのサミットということでしたが、何とか無事終了出来ましたのも、今日聴講頂きました皆様方、それから笠井先生、参加頂きました各市の行政それから住民団体の方々の賜物と思っております。今後とも第1回目で終わることなく、何回か皆様方のご協力を得ながら続けていくことができればいいかなと思っております。本日は、本当に最後までどうもありがとうございました。

以上で、約1時間の河島アナムさんのコンサートと、20分間の途中休憩を含めて、計約4時間に渡る寺内町サミットは、終了しました。

(記録：広報部会)

第 三 部 （資料集 2）

富田林寺内町をまもり・そだてる会結成20周年記念事業

“富田林寺内町フェスティバル” から

『寺内町サミット』

参加各市寺内町プレゼン資料集

＊以下は、第二部〔4〕（参加各市寺内町のプレゼンテーション：31頁）とともにご覧ください。

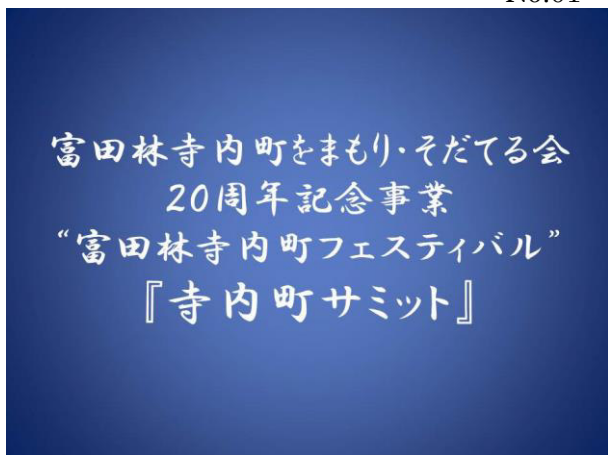
目 次

頁

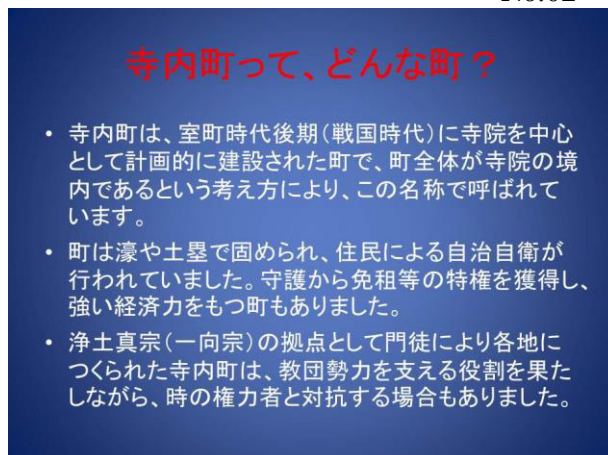
- | | |
|---------|---|
| ＜1＞ 富田林 | 「富田林寺内町フェスティバル『寺内町サミット』
における富田林寺内町紹介」・・・50 |
| ＜2＞ 久宝寺 | 「住み続けたいまちづくりをめざして」・・・55 |
| ＜3＞ 貝 塚 | 「貝塚御坊願泉寺を中心とした自治都市」・・・60 |
| ＜4＞ 今井町 | 「今井町のまちなみ」・・・・・・・・・・63 |
| ＜5＞ 一身田 | 「津うコレ！ 一身田寺内町をまちあるき」・・・66 |

〈1〉 富田林 「富田林寺内町フェスティバル『寺内町サミット』 における富田林寺内町紹介」

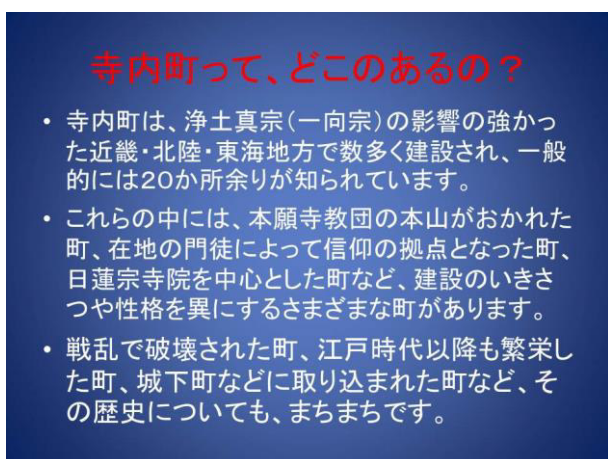
No.01



No.02



No.03



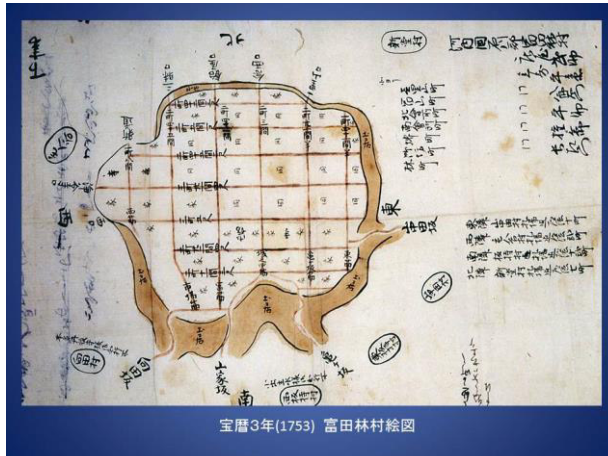
No.04



No.05



No.06



No.07



河内名所図会 享和元年(1801)

No.08

富田林寺内町

- 富田林寺内町は、永禄年間(1558～1569)に京都興正寺門跡十六世証秀上人によって創建された宗教自治都市。
- 十七世紀以降、幕府の直轄地となつてからは宗教色が次第に薄れ、周辺地域の農産物が集積し、商業活動が盛んな在郷町として発展。
- 創建当初の六筋七町の町割りとともに重要文化財旧杉山家住宅などの重厚な町家が数多く残されているということで、平成9年に大阪府内唯一重要伝統的建造物群保存地区に選定。

No.09



富田林寺内町の町並み(城ノ門筋：日本の道百選) 北から

No.10



大阪府指定建造物 仲村家住宅 天明2年(1782)造り酒屋「佐渡屋」

No.11



葛原家住宅三階蔵 19世紀中ごろ

No.12

重要文化財 興正寺別院



鼓楼 18世紀後期 文化7年(1810)に現在地へ移築

No.13



No.14 (2 ページ後に拡大スライドあり)



No.15



No.16



No.17



No.18



No.19



No.20



No.21

町並み保存の歩み

- 昭和32年: 林野全孝先生による町家の調査
- 昭和48年: 「富田林寺内町をまもる会」結成
- 昭和58年: 杉山家住宅を買収(点から面へ)
- 昭和62年: 「富田林寺内町地区町並み保全要綱」を施行し、市費で保存修理工事を開始
- 平成3年: 「富田林市伝統的建造物群保存地区条例」を公布し、「富田林市伝統的建造物群保存審議会」を設置
- 平成6年: 「富田林寺内町をまもり・そだてる会」結成
- 平成9年: 大阪府内唯一重要伝統的建造物群保存地区に選定
- 平成10年: 国庫補助事業による保存修理工事を開始
- 平成10年～: 街なみ環境整備事業を実施(国交省)

No.22

賑わいと落ち着きのある町づくり

- 平成10年: 「富田林寺内町ボランティアガイドの会」発足(まもり・そだてる会会員・家族)
- 平成20年: 「富田林駅南地区まちづくり協議会」発足し、「じないまち四季物語」を開催
- 平成22年: 「一般社団法人じないまち文化トラスト」発足
- 平成25年: 富田林駅南地区整備事業完了後、「じないまち四季物語実行委員会」発足

No.23

空家・空店舗の活性化

・平成21年: 「有限実行組合 富田林町家利活用促進機構」(LLPまちかつ) 設立

No.24

じないまち界隈で37店舗入居

No.25



No.14 の拡大



寛永15年(1638)に再興された御堂(大阪府内最古の真宗寺院本堂)

〈2〉 久宝寺 「住み続けたいまちづくりをめざして」

No.01



No.02



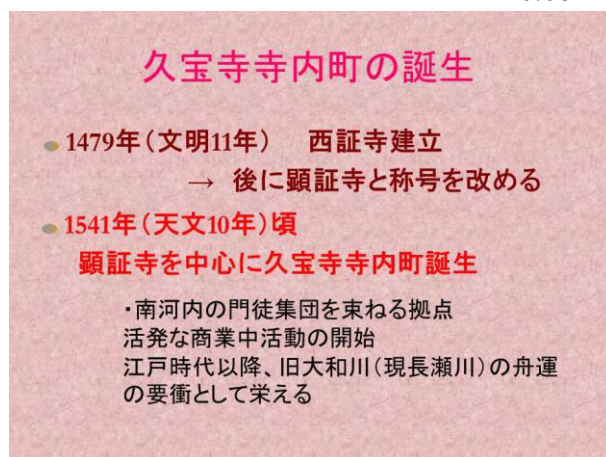
No.03



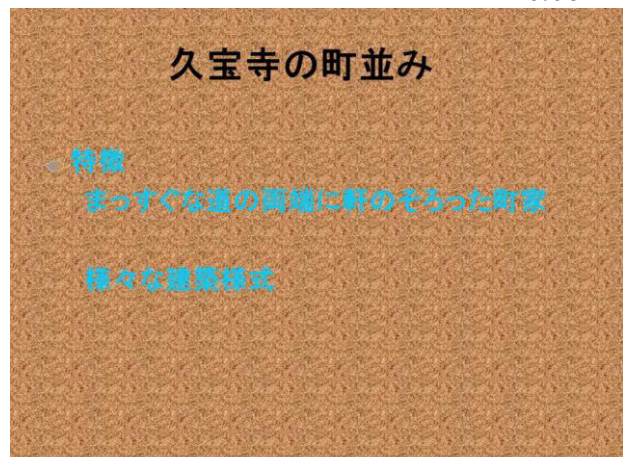
No.04



No.05



No.06



No.07

久宝寺寺内町保全整備事業

- ・450年以上の歴史を持つまちの歴史的資産を保全
- ・地元のまちづくり組織である「久宝寺寺内町まちづくり推進協議会」との協働
- ・平成5年から平成14年までの10年間
- ・約18haの区域について、事業費総額約13億円
- ・道路修景整備、水路修景整備、公園整備等の事業を実施。

No.08

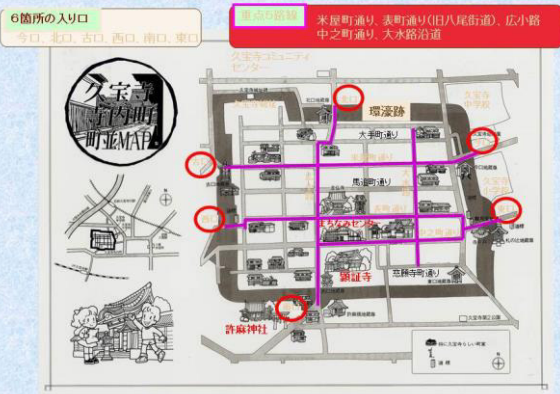
保全整備の基本方針

- 1) 歴史的環境を保全
＝歴史的資源、町並みの保全
- 2) 八尾らしい都市景観をつくる
＝歴史的環境を基本とした景観の創造
- 3) 生活環境を守る
＝居住環境の整備・向上
- 4) 新しい町家をつくる
＝建替え時の誘導による新町家の形成
- 5) まちづくりの主体をつくる
＝推進組織づくり

同地区は落ち着いた居住環境を活かし、
街なみ環境事業として都市整備部局で実施

No.09

久宝寺の町並み 入口を結ぶ5路線を重点的に修景整備を実施

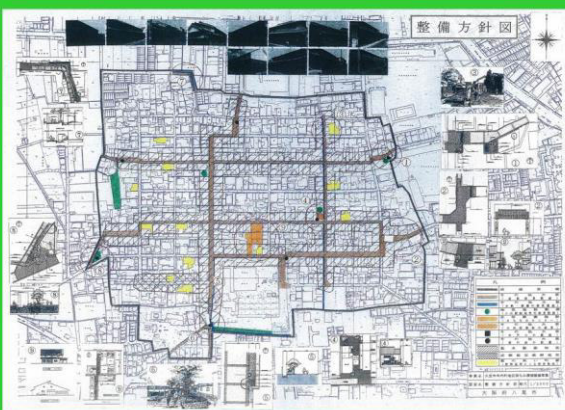


No.10

平成5年～14年までの事業例

No.11

街なみ環境整備事業整備方針図



No.12

道路整備例

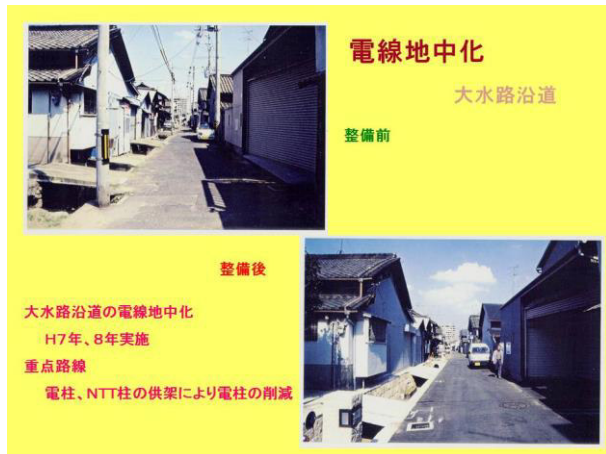


整備後

自然色舗装(脱色アスファルト)
土色のイメージ
交差点部はインターロッキング
強度を持たせるため



No.13



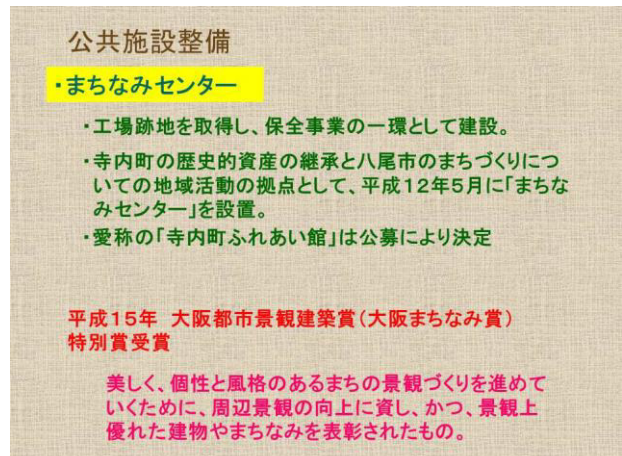
No.14



No.15



No.16



No.17



No.18



No.19

公共施設整備

・消防屯所・警察立寄り所

- ・元々、警察の駐在所として使用されていた施設。
- ・警察の管轄が大阪府となった時に、派出所と消防団の機械器具置き場(消防屯所)として使用。
- ・建物が老朽化していることから平成13、14年に整備。

No.20

消防屯所・警察立寄り所

整備前



整備後



No.21

案内板設置例

公園内



市民参加の意識啓発及び他市からの来訪者への対応として設置。

寺内町内
(寺内町入口、重点路線、公園等)
近鉄久宝寺口駅
JR久宝寺駅

No.22

民間家屋修景助成

- ・平成5年9月1日制定の「久宝寺寺内町まちづくり要綱」に基づき、平成6年度から19年度まで運用。

・平成19年度末実績

助成総額 92,625,000円
助成件数 47件
1件当たり助成金額約200万円

- ・20年度以降は届出時に外壁等を落ち着いた色調で施工していただくなどの協力を依頼

No.23

民間家屋修景例

店舗外観修景(H6年)

整備前



整備後



No.24

民間家屋修景例

念仏寺(H7年)

整備前

門及び塀の改修



整備後



No.25



No.26

久宝寺寺内町まちづくり協議会の受賞実績
大阪府まちづくり功労者賞受賞(H14年度)
受賞対象
・ 地域活動を通して、魅力あるまちづくりの推進に努めているもの
・ 施設の整備等を通して、魅力あるまちづくりの推進に努めているもの
・ その他魅力あるまちづくりの推進に功績のあったもの
国土交通大臣まちづくり功労者賞受賞(H14年度)
受賞対象
・ 魅力あるまちづくりの推進に努め、特に著しい功績のあった民間の団体
市街地再開発等関係功労表彰(H16年度)
(社団法人 全国市街地再開発協会)
受賞対象
・ 市街地住宅整備のための顕著な功績のあった団体等

No.27

久宝寺寺内町のこれから

・景観形成への取り組み
八尾市や地域に対する愛着や誇り、日常生活の快適性の向上及び八尾文化の継承・発展が確保できるよう自然・歴史的景観の保全・整備や現代的景観の創造等に努めていきます。また、平成16年に制定された景観法の活用を視野に入れつつ、良好な景観形成への取り組みを検討します。

・久宝寺寺内町の今後
「街なみ環境整備事業」の採択を受け整備を進めてきた久宝寺寺内町ですが、整備期間の平成5年度から平成14年度までの10年間で整備方針の整備は一定完了しました。
平成20年度に大阪ミュージアムに【久宝寺寺内町】【まちなみセンター】が登録され、それを記念して平成21年より地域の幼・小・中学校の生徒と地域の皆様が協力し燈路まつりが開催されており、今年度についても9月7日に開催いたしました。
今後は、市全体の景観形成とのバランスを図り、住民やまちづくり協議会の方々と意見交換しながら、保全に勤めていきたいと考えております。その中で、今年度(平成26年度)「久宝寺寺内町まちづくり推進協議会」が主体となって、「久宝寺寺内町意識調査」を実施しているところであり、今後調査結果を考慮して、寺内町の保全方針を検討していききたいと考えております。

No.27 の拡大

久宝寺寺内町のこれから

・景観形成への取り組み
八尾市や地域に対する愛着や誇り、日常生活の快適性の向上及び八尾文化の継承・発展が確保できるよう自然・歴史的景観の保全・整備や現代的景観の創造等に努めていきます。また、平成16年に制定された景観法の活用を視野に入れつつ、良好な景観形成への取り組みを検討します。

・久宝寺寺内町の今後
「街なみ環境整備事業」の採択を受け整備を進めてきた久宝寺寺内町ですが、整備期間の平成5年度から平成14年度までの10年間で整備方針の整備は一定完了しました。
平成20年度に大阪ミュージアムに【久宝寺寺内町】【まちなみセンター】が登録され、それを記念して平成21年より地域の幼・小・中学校の生徒と地域の皆様が協力し燈路まつりが開催されており、今年度についても9月7日に開催いたしました。
今後は、市全体の景観形成とのバランスを図り、住民やまちづくり協議会の方々と意見交換しながら、保全に勤めていきたいと考えております。その中で、今年度(平成26年度)「久宝寺寺内町まちづくり推進協議会」が主体となって、「久宝寺寺内町意識調査」を実施しているところであり、今後調査結果を考慮して、寺内町の保全方針を検討していききたいと考えております。

〈3〉 貝 塚 「貝塚御坊願泉寺を中心とした自治都市」

No.01

貝塚寺内町

貝塚御坊願泉寺を
中心とした自治都市

No.02

貝塚寺内全景(平成9年)



No.03

慶安元(1648)年の寺内絵図



No.04

願泉寺



No.05

願泉寺シアター



No.06

寺内の町並み(御坊前筋)



No.07

寺内の町並み(堀之町筋)



No.08

寺内の町並み(御下筋)



No.09

感田神社



No.10

感田神社(濠)



No.11

利齋家住宅



No.12

岡本家住宅



No.13

廣海家住宅



No.14

寺田家住宅



写真撮影: 紋野達也

No.15

貝塚寺内町と紀州街道まるごと博物館



No.16

貝塚寺内町と紀州街道まるごと博物館



〈4〉 今井町 「今井町のまちなみ」

No.01



No.02

今井町の成り立ち ～その1～

- ・14世紀後半に興福寺荘園として位置づけ
- ・室町時代後期（16世紀前半）に一向宗の寺院（後の称念寺）の寺内町として成立
- ・天文年間（1532～55）には東西南北の四町からなる環濠集落を形成
- ・1570年代に町を武装化し織田信長に反抗、その後信長に赦免された後、武装を解除し、在郷町として発展する。
- ・文禄年間（1592～95）には六町として成立
- ・当時の町の姿は、周囲に堀（約3間）及び土居が築かれ、町への入り口には九つの門があった。

No.03

今井町の成り立ち ～その2～

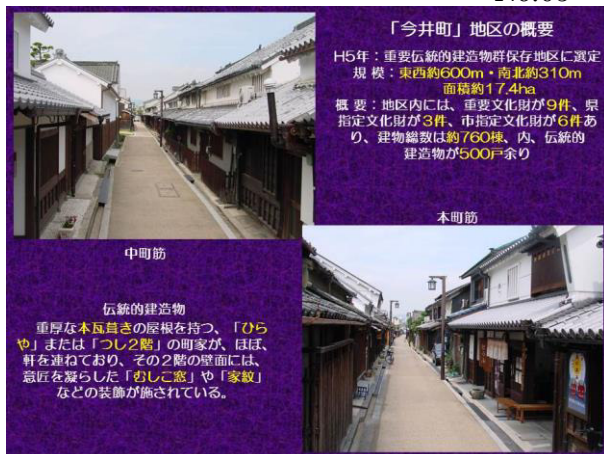
- ・江戸時代を通じてほとんどが天領であったが町人の自治が認められ、中南和の商業都市として発達
- ・町政は、今西・尾崎・上田氏の惣年寄を中心に組織され、司法・警察権の一部を掌握
- ・繰綿・木綿を中心に栄え、その後、大名に金銀を貸す両替商もあらわれ、幕府から許可された「今井札」を発行するに至る（「大和の金は今井に七部」と云われていた。）
- ・江戸時代初め、家数千軒、人口4千人、当時の町民は、町掟等により自ら規制し、特に火災については厳しく定められていた。

No.04（2ページ後に拡大スライドあり）

今井町の町並み保存等の取り組み

- ・昭和30年前後 東京大学による「今西家」の調査の後、今井町を調査
- ・昭和32年 今西家が重要文化財に指定
- ・昭和43・44年 奈良文化財研究所・奈良女子大の合同調査
- ・昭和46年 「今井町を保存する会」が発足
- ・昭和47年 6軒の民家（旧米谷家、高木家、音村家、中橋家、豊田家、上田家）が重要文化財に指定される（河合家は昭和51年に指定）
- ・昭和49年 「町並み保存連盟（有松・妻籠・今井）」が結成
- ・昭和50年 商工業者中心の今井町の住民組織「親和会」が結成
- ・昭和53年 「今井町保存問題に関する総合調査対策協議会（住民協議会）」が発足
- ・昭和52～56年 文化庁・建設省の合同調査
- ・昭和58～63年 今井町住民の方々の協議調整
- ・昭和58年 市独自の補助制度「今井町町並み保存対策補助金制度」を創設
- ・昭和63年 住民協議会が「今井町町並み保存会」として再結成
- ・平成元年 「榎原市伝統的建造物群保存地区保存条例」の制定
伝統的建造物群保存地区保存審議会発足
歴史的地区環境整備街路事業（ほみち事業）に着手
- ・平成2～3年 伝建地区指定反対の方々の協議調整
- ・平成5年3月 今井町伝統的建造物群保存地区の都市計画決定
- ・平成5年12月 今井町重要伝統的建造物群保存地区に選定
- ・平成6年 今井町街なみ環境整備事業に着手（平成30年度まで）

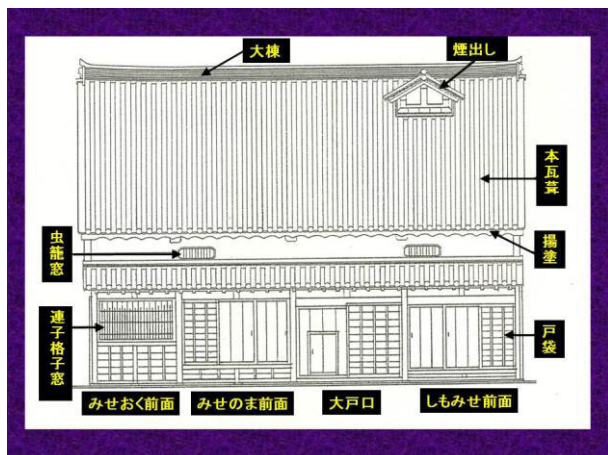
No.05



No.06



No.07



No.08



No.09



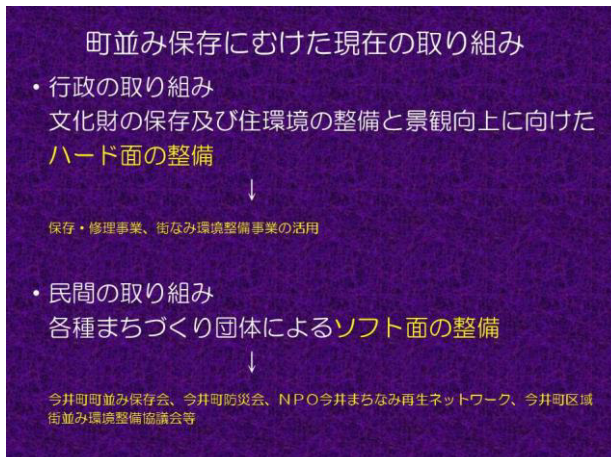
No.10



No.11



No.12



まちづくり団体の活動

今井町並み保存会

「今井の町並み保存を考え、よりよい住民の生活環境づくりを行う」事を目的に活動

活動内容

- ・今井町並み散歩
- ・今井灯火会
- ・ミニ機関紙「いまいは今」の発刊
- ・大和今井を見る会食べる会
- ・まちづくり亭今井（落語寄席）
- ・今井町の取材・撮影の協力、メディア等への今井町の情報発信



まちづくり団体の活動

今井町防災会

「木造家屋群である伝建地区今井町と住民の生命・財産を災害から守る」事を目的に活動

活動内容

- ・防災知識の普及、防災訓練の実施
- ・市施設の防災小屋の管理と防災器具、設備の整備点検
- ・市設置の消火器の点検

今井町区域町並み環境整備協議会

「今井町における各種整備事業を通じ、今井の歴史的町並みの質の向上を図る」事を目的に活動

活動内容

- ・技能向上のための研修会、勉強会、模型作成等

まちづくり団体の活動

NPO今井まちなみ再生ネットワーク

「賑わいのあるまちづくり」を推進する事業を行い、保存地区の活性化に寄与することを目的に活動

活動内容

- ・HPによる情報提供
- ・空き家バンク
- ・サブリース事業
- ・町家体験型宿泊施設 今井庵「楽」の整備・運用
- ・情報誌（年4回）及び「町家暮らしのすすめ」の発刊
- ・まちづくり人講習会
- ・空家調査等の各種調査研究



今井町の町並み保存等の取り組み

- ・昭和30年前後 東京大学による「今西家」の調査の後、今井町を調査
- ・昭和32年 今西家が重要文化財に指定
- ・昭和43・44年 奈良文化財研究所・奈良女子大の合同調査
- ・昭和46年 「今井町を保存する会」が発足
- ・昭和47年 6軒の民家（旧米谷家、高木家、菅村家、中橋家、豊田家、上田家）が重要文化財に指定される（河合家は昭和51年に指定）
- ・昭和49年 「町並み保存連盟（有松・妻籠・今井）」が結成
- ・昭和50年 商工業者中心の今井町の住民組織「親和会」が結成
- ・昭和53年 「今井町保存問題に関する総合調査対策協議会（住民協議会）」が発足
- ・昭和52～56年 文化庁・建設省の合同調査
- ・昭和58～63年 今井町住民の方々との協議調整
- ・昭和58年 市独自の補助制度「今井町町並み保存対策補助金制度」を創設
- ・昭和63年 住民協議会が「今井町町並み保存会」として再結成
- ・平成元年 「橿原市伝統的建造物群保存地区保存条例」の制定
伝統的建造物群保存地区保存審議会発足
歴史的地区環境整備街路事業（歴みち事業）に着手
- ・平成2～3年 伝建地区指定反対の方々との協議調整
- ・平成5年3月 今井町伝統的建造物群保存地区の都市計画決定
- ・平成5年12月 今井町重要伝統的建造物群保存地区に選定
- ・平成6年 今井町街なみ環境整備事業に着手（平成30年度まで）

〈5〉 一身田 「津っコレ！ 一身田寺内町をまちあるき」

《以下は、津市制作ビデオ（約10分間）の主なシーンの抜粋です》

No.01

津っコレ！ 一身田寺内町をまちあるき

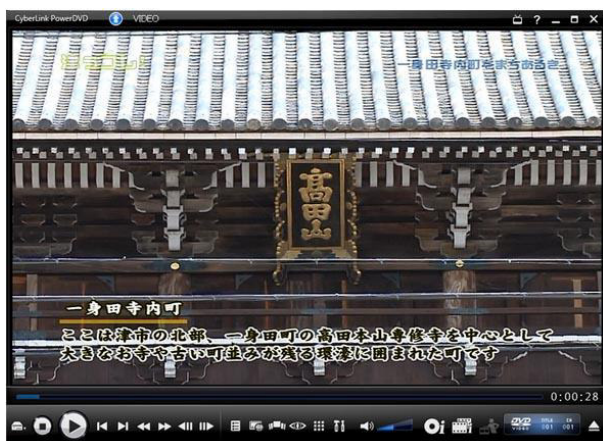
津市教育委員 生涯学習課

No.02



ここは津市の北部、一身田町の高田本山専修寺を中心として大きなお寺や古い町並みが残る環濠に囲まれた町です

No.03



ここは津市の北部、一身田町の高田本山専修寺を中心として大きなお寺や古い町並みが残る環濠に囲まれた町です

No.04



ここは津市の北部、一身田町の高田本山専修寺を中心として大きなお寺や古い町並みが残る環濠に囲まれた町です

No.05



専修寺山門をくぐると、正面に御影堂が見えます
国の重要文化財に指定されている御影堂は、専修寺最大の建物で、

No.06



現存する木造建築物としては、全国で5番目の大きさです

No.07



このほか境内には、御影堂の西側に建つ如来堂や、この二つの建物を結ぶ通天橋、山門、唐門など、

No.08



このほか境内には、御影堂の西側に建つ如来堂や、この二つの建物を結ぶ通天橋、山門、唐門など、

No.09



このほか境内には、御影堂の西側に建つ如来堂や、この二つの建物を結ぶ通天橋、山門、唐門など、

No.10



このほか境内には、御影堂の西側に建つ如来堂や、この二つの建物を結ぶ通天橋、山門、唐門など、

No.11



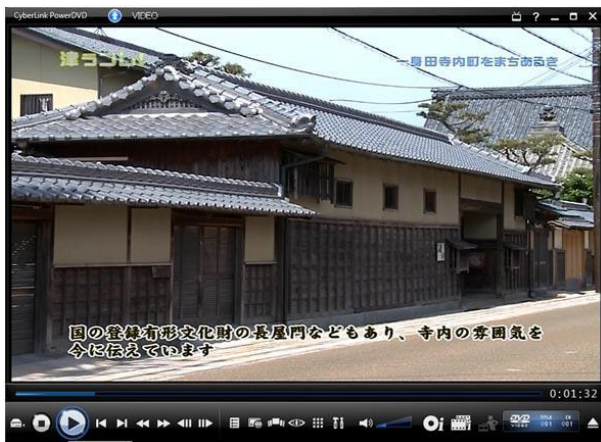
全部で13棟の建物が国の重要文化財に指定されています

No.12



本山前は寺町通りと呼ばれ、広い通りの両側には伝統的な景観が残っていて、石畳、板塀、

No.13



国の登録有形文化財の長屋門などもあり、寺内の雰囲気をも今に伝えています

No.14



見えてきた1軒のお店 薬の博物館
「生命を育むやさしさの博物館」
館長 武野 喜夫さん

No.15



まちかど博物館
地域の人たちの自慢のコレクションや伝統の技など地域の大変な財産を館長の仕事場の一角などで公開する新しい形の博物館

No.16



館長に他のまちかど博物館を教えてもらい、寺内町を東へと進みます

No.17



「鉄道おもちゃ博物館」
館長 中川 隆功さん
こちらでは手作りの鉄道おもちゃを展示しております

No.18



寺内町を歩くと、寺内町がお堀によって囲まれていることに気がきます

No.19



これは環濠といって、東西約500m、南北約450mの寺内町の範囲を明確に示しています

No.20



北に向かって歩くと、寺町通りに戻ってきました

No.21



「時代を写したこだわり博物館」
館長 下井 弘吉さん

No.22



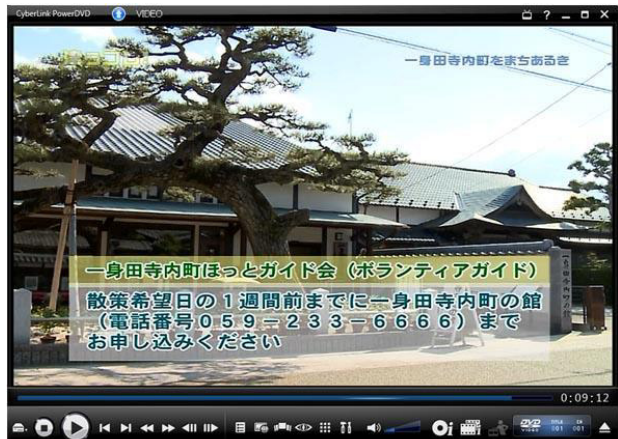
まちかど博物館を出てすぐ隣、「一身田寺内町の館」に着きました

No.23



「一身田寺内町の館」
副館長 鈴木 良次さん
寺内町の歴史や文化を紹介するガイダンス施設です

No.24



一身田寺内町ほっとガイド会 (ボランティアガイド)
散策希望日の1週間前までに一身田寺内町の館 (電話番号059-233-6666) までお申し込みください

No.25



ぜひ一度、ほっとするまち一身田寺内町を訪れてみませんか

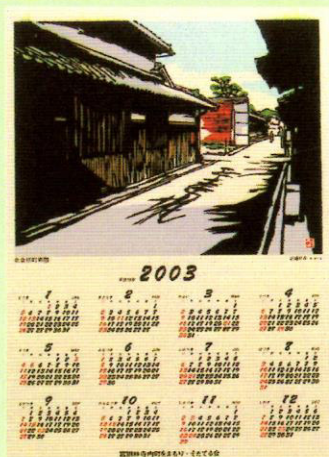
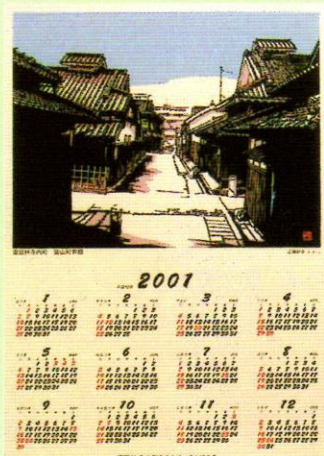
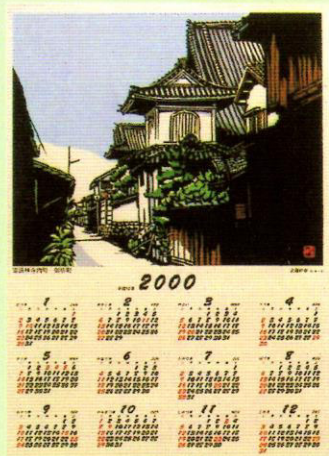
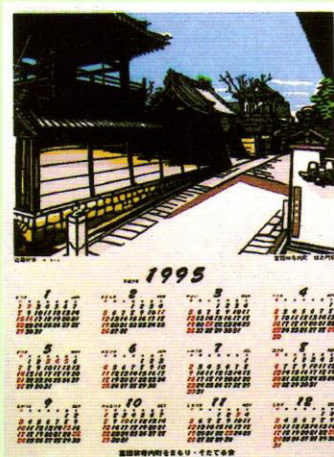
No.26



一身田寺内町へのアクセス
 一身田寺内町の館
 TEL 059-233-6666

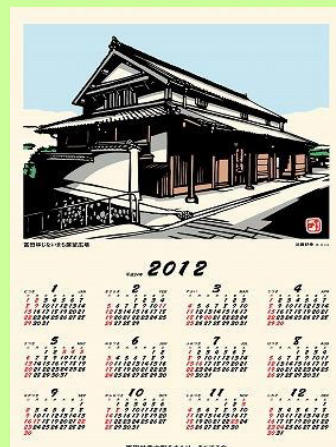
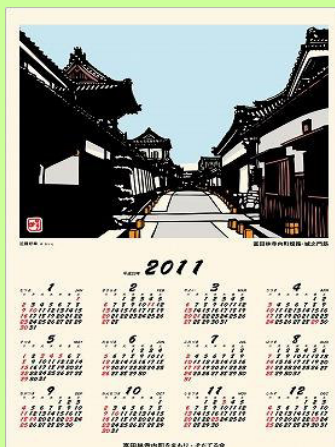
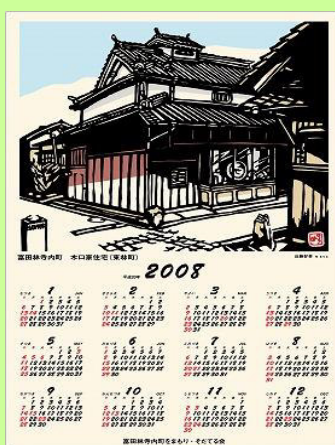
寺内町 きり絵 カレンダー

きり絵
近藤好幸氏



寺内町 きり絵 カレンダー

きり絵
近藤好幸氏



富田林寺内町をまもり・そだてる会20周年記念事業
富田林寺内町フェスティバル記念報告集

編 集 富田林寺内町をまもり・そだてる会
発 行 平成27年4月吉日
印 刷 株式会社 インダ印刷